山梨市文化財調査報告書　第40集

小　揚　遺　跡

－主要地方道甲府山梨線バイパス工事に伴う発掘調査報告書－

２０２１.３

山梨県峡東建設事務所
山梨市教育委員会

序

本書は主要地方道甲府山梨線バイパス工事に伴って行われた小揚遺跡発掘調査の報告書です。

今回の調査では、複数の縄文時代の竪穴遺構を確認することができました。調査地を含む周辺の斜面地に、縄文時代中期後半から後期初頭の集落が展開していることが推定され、八幡地域における古代の生活の痕跡を発見することができました。

最後になりますが、山梨県峡東建設事務所及び調査支援をしていただいた昭和測量株式会社の皆様をはじめ関係各位に心から感謝申し上げ、序といたします。

令和３年３月

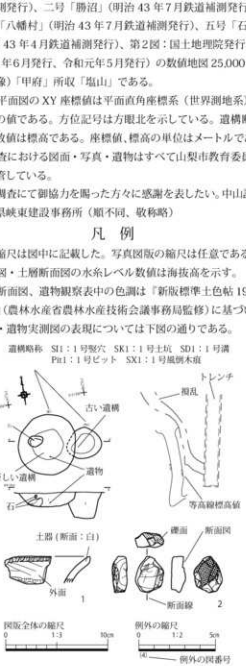
山梨市教育委員会
教育長　澤田 隆雄

例　言

1. 本報告書は、山梨県山梨市堀内 783 外に所在する小揚遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は防災・安全社会資本整備交付金事業主要地方道甲府山梨線バイパス工事に伴う発掘調査であり、山梨市教育委員会が実施し、昭和測量株式会社が調査支援をした。
3. 調査は山梨市教育委員会生涯学習課の駒田真人が担当し、昭和測量株式会社の高野高潔、藤巻浩太郎が現地調査及び整理作業の支援を行った。
4. 本調査に関わる費用は山梨県峡東建設事務所が負担した。
5. 発掘調査は令和2年5月11日～令和2年7月27日にかけて実施した。整理・報告書刊行業務は令和2年9月～令和3年3月まで実施した。調査面積は 300㎡である。
6. 報告書の執筆は、第1章駒田・高野、第2章藤巻、第3章高野・藤巻、第4章高野・藤巻、第5章第1節高野、第2節藤巻が担当した。全体の編集は高野・藤巻、遺物写真撮影は高野が行った。
7. 挿図使用地図は、第1図：大日本帝国陸地測量部発行の1/20,000 地形図甲府近傍一号「七里村」（明治 43 年7月鉄道補測発行）、二号「勝沼」（明治 43 年7月鉄道補測発行）、四号「八幡村」（明治 43 年7月鉄道補測発行）、五号「石和」（明治 43 年4月鉄道補測発行）、第2図：国土地理院発行（平成 14 年6月発行、令和元年5月発行）の数値地図 25,000（地図画像）「甲府」所収「塩山」である。
8. 遺構平面図の XY 座標値は平面直角座標系（世界測地系）第Ⅷ系の値である。方位記号は方眼北を示している。遺構断面図の数値は標高である。座標値、標高の単位はメートルである。
9. 本調査における図面・写真・遺物はすべて山梨市教育委員会で保管している。
10. 発掘調査にて御協力を賜った方々に感謝を表したい。中山誠二、山梨県峡東建設事務所（順不同、敬称略）

凡　例

1. 挿図縮尺は図中に記載した。写真図版の縮尺は任意である。
2. 立面図・土層断面図の水糸レベル数値は海抜高を示す。
3. 土層断面図、遺物観察表中の色調は『新版標準土色帖 1990 年版』（農林水産省農林水産技術会議事務局監修）に基づいた。
4. 遺構・遺物実測図の表現については下図の通りである。



目　次

序
例言・凡例
第1章　経過
　第1節　調査に至る経過・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
　第2節　調査の目的と課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
　第3節　調査の経過・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
第2章　遺跡の立地と歴史的環境
　第1節　地理的環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
　第2節　歴史的環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
第3章　調査の方法
　第1節　調査の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
　第2節　基本層序・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
第4章　調査の成果
　第1節　調査の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
　第2節　遺構・遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
第5章　まとめ
　第1節　遺構と時期・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・31
　第2節　土偶・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・32
写真図版

挿図目次

第1図　調査地の位置・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
第2図　周辺の遺跡分布・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
第3図　基本層序・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
第4図　調査区全体図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
第5図　1号竪穴（1）遺構・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
第6図　1号竪穴（2）遺構・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
第7図　1号竪穴（3）・土坑　遺構・・・・・・・・・・・・・・・・13
第8図　2号竪穴　遺構・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14
第9図　3号竪穴　遺構・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15
第10図　4号竪穴　遺構・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16
第11図　1号竪穴（1）遺物（土器）・・・・・・・・・・・・・・・17
第12図　1号竪穴（2）遺物（土器）・・・・・・・・・・・・・・・18
第13図　2号竪穴（1）遺物（土器）・・・・・・・・・・・・・・・19
第14図　2号竪穴（2）遺物（土器）・・・・・・・・・・・・・・・20
第15図　3号竪穴（1）遺物（土器）・・・・・・・・・・・・・・・21
第16図　3号竪穴（2）遺物（土器）・・・・・・・・・・・・・・・22
第17図　4号竪穴（1）遺物（土器）・・・・・・・・・・・・・・・23
第18図　4号竪穴（2）遺物（土器）・・・・・・・・・・・・・・・24
第19図　1～4号竪穴（1）遺物（石器）・・・・・・・・・・・・・25
第20図　1～4号竪穴（2）遺物（石器）・・・・・・・・・・・・・26
第21図　1～4号竪穴（3）遺物（石器）・・・・・・・・・・・・・27

表目次

表1　周辺の遺跡一覧表・・・・・5　表2　遺物観察表・・・・・・・・・・・28

写真図版目次

調査区・1～3号竪穴・・図版1　3号竪穴 土器・・・・・・・・・・図版5
4号竪・1号土坑・・・・・・図版2　4号竪穴 土器・・・・・・・・・・図版6
1号竪穴 土器・・・・・・・・・図版3　1～4号竪穴 石器・・・・・・図版7
2号竪穴 土器・・・・・・・・・図版4

第１章　経過

第１節　調査に至る経過

山梨県峡東建設事務所により主要地方道甲府山梨線バイパス工事について平成 29 年に協議があり、計画範囲内に小揚遺跡が存在していることから平成 29 年６月８日に埋蔵文化財包蔵地発掘の通知が山梨県峡東建設事務所より山梨市教育委員会に提出され、平成 30 年 12 月 17 日から 21 日にかけ山梨市教育委員会による試掘調査が行われた。

調査の結果、工事範囲内の一部において遺構・遺物が確認され、今回の発掘対象地である 300㎡について遺跡の保護について山梨県峡東建設事務所と山梨市教育委員会で協議を行った結果、記録保存調査を行うこととなった。山梨市教育委員会で調査を行い、昭和測量株式会社が調査支援を行った。

第２節　調査の目的と課題

今回の調査は山梨市八幡地区を東西に横断する道路建設に伴い遺構・遺物の記録保存を行うことを目的とする。調査地は標高 460 mを測る高地であり、傾斜度が約６度の扇状地である。北側は傾斜度約 15 度の山地がせまっている。西側には八幡条里が標高約 450m から 370m に広がる傾斜度約２度の谷底平野の台地上に認められる。調査地はこの谷底平野の谷頭部よりも更に上に位置する。調査地の現況は果樹畑、それ以前は水田であり、斜面地に石積みで土止めを施した比較的狭小な平坦面が段々に造成されている。今回の調査では、このような標高の高い傾斜地の造成面でいかに遺構を検出することができるかが課題であった。

第３節　調査の経過

小揚遺跡の調査は山梨市教育委員会が主体となって実施し、生涯学習課の駒田真人が発掘を担当した。山梨市から委託を受けて昭和測量株式会社が調査支援を行った。

山梨市教育委員会：調査担当者　駒田真人。発掘補助員　芦沢はつ子、岡利恵、小澤志郎、藤原今朝男、若月あい子。昭和測量株式会社：支援調査員　高野高潔、藤巻浩太郎。助言・指導　新津健。発掘補助員　朝倉訓、雨宮克好、土屋常子、内藤敏夫、廣瀬早希、藤原由香、三木一恵、山本修二、若林奈々。空中写真撮影　吉田泰司、野村亮太。整理補助員　浅川悠起子、今福ともみ、尾川正美、垣内律子、齊藤里美、佐野香織、広瀬ありさ、三木一恵。

発掘調査は令和２年５月 11 日に開始し、令和２年７月 27 日に終了した。調査面積は 300㎡である。詳細は以下のとおりである。

５月 11 日、重機による表土除去開始。13 日、環境整備、グリッド１Ａ～８Ｃ設定、人力精査開始。14 日、仮設ハウス等設置、基準点設置。15 日、６Ａ～６Ｃサブトレ調査。18 日、２Ａ～３Ｃサブトレ精査。１Ａ～２Ｃ遺物包含層掘削、遺構確認。20 日、４Ａ～６Ａ、３Ｂ～６Ｂ土層確認。21 日、３Ａ～４Ａ遺物包含層掘削。22 日、２Ｂ～２Ｃ旧水田層精査。25 日、３Ａ～４Ａ遺構確認。26 日、３Ｂ～４Ｂ遺物包含層掘削。27 日、５Ａ遺物包含層掘削。28 日、３Ｂ～４Ｂ遺構確認。３Ｂ旧水田層精査。29 日、５Ｂ遺物包含層掘削。６月１日、５Ｂ遺構確認。２日、３Ｃ～５Ｃ遺物包含層掘削。３日、３Ｃ遺構確認。５日、４Ｃ～５Ｃ遺構確認１号竪穴精査。17 日、６Ａ遺物包含層掘削。23 日、６Ｃ遺物包含層掘削。24 日、６Ｃ遺構確認２号竪穴精査、７Ｃ～８Ｃ遺物包含層掘削・遺構確認。23 日、７Ｂ遺物包含層掘削。26 日、６Ａ遺構確認３号竪穴精査。29 日、６Ｂ遺物包含層掘削、遺構確認４号竪穴精査。７月７日、７Ｂ遺構確認。７月 22 日ドローン空中写真撮影、仮設ハウス等撤去。27 日現場作業終了。

整理作業は令和２年 10 月１日に開始し、令和３年２月 26 日に終了した。出土遺物の水洗、注記、接合、実測遺物の選定、実測、トレース、写真撮影、図版作成、編集・版下データ作成を行い、報告書を刊行した。

第２章　遺跡の立地と歴史的環境

第１節　地理的環境

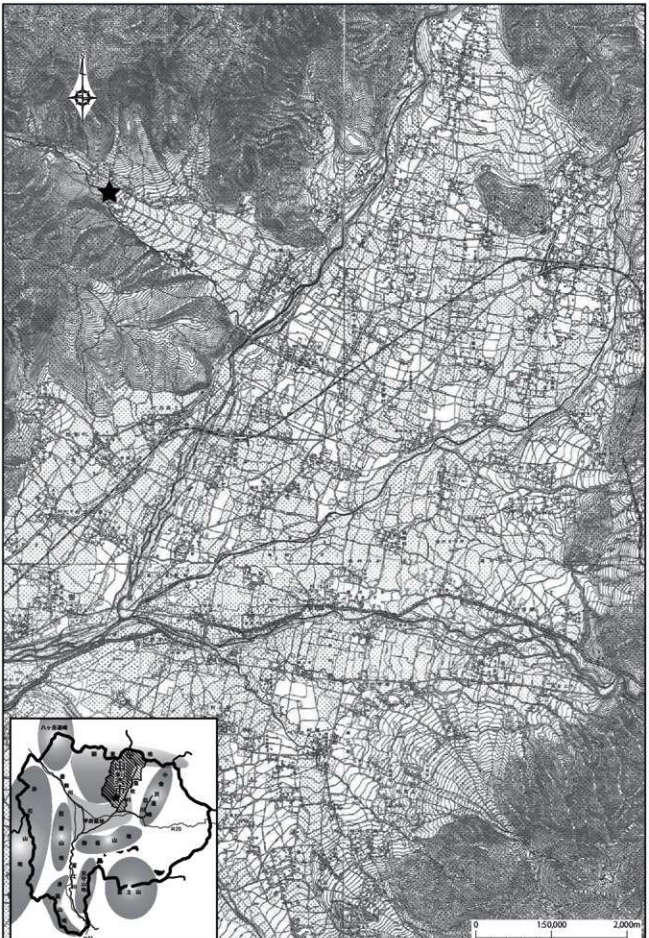
山梨県山梨市は甲府盆地の北東部から県境の関東山地までを占めている。北側には 2,000 m級の秩父山地が広がり埼玉県・長野県と接している。小揚遺跡が所在する堀内地区は山梨市の南西部にあり、兄川・弟川の２河川が形成した東向き、約２２°南偏した扇状地上に位置している。兄川・弟川は笛吹川の支流で、兄川は秩父山地の支尾根の一つ、帯那山付近に源流をもつ河川である。扇状地は南縁を兄川、北縁を弟川が流下したもので東西に約３km、南北に約 1.5kmの範囲を持つ。小揚遺跡はこの扇状地の南西部、兄川よりに立地し標高は約 465 mである。かつては水田が盛んに作られ、近年ではブドウ・モモなどの果樹地帯として土地利用が行われている。調査前の現況はブドウの栽培を主とした果樹園であった。また兄川上流の山梨市水口、山口地区からは太良峠を越え甲府市上積翠寺町を経て武田氏館跡へと下ることができ、かつては甲府市方面とを結ぶ主要なルートの一つであったと考えられる。近年では西関東連絡道路の開通により甲府市からのアクセスが改善されている（第１図）。

第２節　歴史的環境

山梨市域に存在する遺跡は 318 を数えており (令和２年現在)、中でも奈良・平安時代の遺跡が多数を占めている。小揚遺跡（１）の所在する堀内地区周辺には縄文時代及び平安時代の遺跡が点在している。本遺跡の南東に位置する兄川河床遺跡（２）では、ナウマンゾウの化石骨や臼歯、シカ属角片が出土している。縄文時代には本遺跡周辺では大工北遺跡（３）で縄文土器が出土しているほか植田遺跡（１１）からは集石土坑などが確認されている。山梨市域を見ると、柿木田遺跡（３８）や八王子遺跡（４８）で集落跡が確認されている。高畑遺跡（３４）でも中期の竪穴住居跡が重複を含めて１０軒検出されており、立石遺跡（３５）では中期後半の住居跡や縄文土器が多数出土している。弥生時代になると遺跡数が減少し、延命寺遺跡（５６）から弥生時代末の遺物、堀ノ内遺跡（５８）から遺構・遺物が確認される。古墳時代では岩下古墳群や山根古墳群など山梨市南部で古墳が確認されるほか、足原田遺跡（５９）では古墳時代前期の土師器が大量に出土されている。平安時代から山梨市内で遺跡数が増加し、本調査地付近では上コブケ遺跡（６）や脇棚遺跡（１６）で遺構が確認されるほか、荒神山窯跡（２４）では土師器焼成遺構が確認される。中世以降には国指定重要文化財である本殿、拝殿等をもつ窪八幡神社社家坊中群（２６）や県指定有形文化財である五輪塔群を持つ安田義定館跡（１１２・１１３）などがあり、本調査地周辺は各時代を通して古代甲斐国の主要な地域の一つであったことがわかる（第２図）。

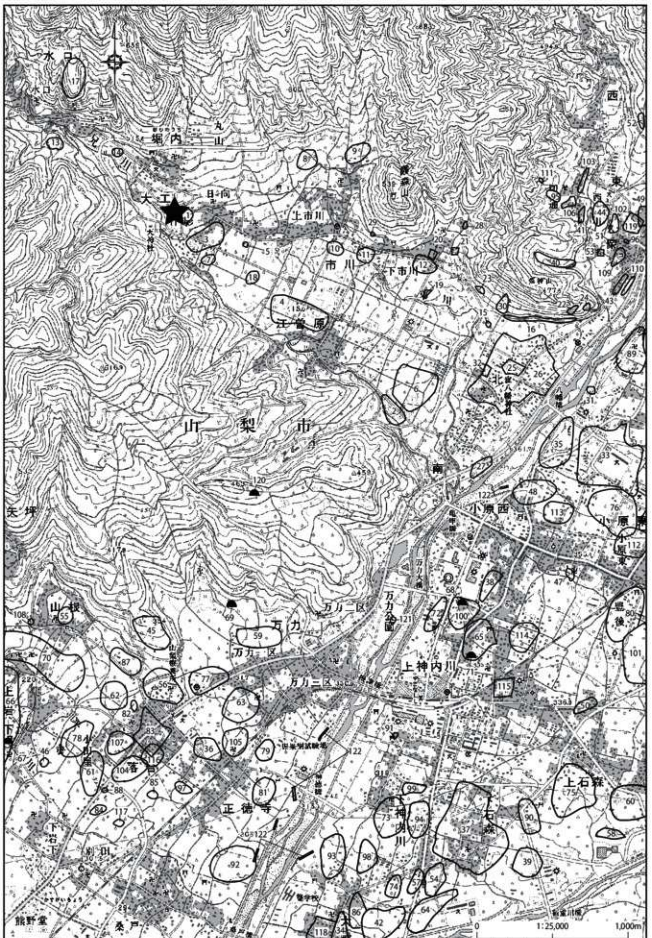
参考文献

山梨県　1998　『山梨県史　資料編１　原始・古代１考古（遺跡）』
山梨県　2004　『山梨県史　通史編１　原始・古代』
山梨市　2004　『山梨市史　史料編　近世』
山梨市　2005　『山梨市史　資料編　考古・古代・中世』
山梨市　2005　『山梨市史　文化財・社寺編』
山梨市　2007　『山梨市史　通史編　上巻』



★調査地（小揃遺跡）

第１図　調査地の位置



★調査地（小操遺跡）

第２図　周辺の遺跡分布

表1 周辺の遺跡一覧表

No.	遺跡名	種別	時代	所在地	No.	遺跡名	種別	時代	所在地
1	小路遺跡	散布地	縄文/平安	堀内字小路	62	千原田遺跡	集落跡	古墳/平安	落合字千原田
2	見川河原遺跡	その他	旧石器	南字上見川(見川河原)	63	間之面西遺跡	散布地	古墳/平安	正德寺字間之面
3	大工北遺跡	散布地	縄文/古墳/平安	大工字北側	64	雲林遺跡	散布地	古墳/平安	下石畜字雲林
4	江曽原遺跡	集落跡	縄文/古墳/平安	山梨市江曽原字月橋	65	塚越遺跡	散布地	古墳/中世	上神内川字塚越
5	堀間遺跡	集落跡	縄文/平安/中世	堀内字堀間	66	岩子古墳群	古墳群	古墳	上岩下
6	上コブク遺跡	集落跡	縄文/平安	北字上コブク	67	天神塚古墳	古墳	古墳	上岩下字上天神山
7	大工南遺跡	散布地	縄文	大工字鼻ノ久保前	68	平塚古墳	古墳	古墳	上神内川字平塚
8	狐原遺跡	散布地	縄文	市川字狐原	69	長瀬寺前古墳	古墳	古墳	上万力字瀬尻
9	市川北遺跡	散布地	縄文	市川字平山	70	山際古墳群	古墳群	古墳	山根
10	市川西遺跡	散布地	縄文	市川字植田	71	福原塚古墳	古墳	古墳	上神内川字塚越
11	植田遺跡	集落跡	縄文	市川字植田	72	日下部洞窟前遺跡	散布地	古墳	上神内川字水上
12	市川東遺跡	散布地	縄文	市川字神明前	73	杉ノ木遺跡	集落跡	古墳	下神内川字杉木
13	勝平遺跡	散布地	縄文	水口字勝平	74	雲高西遺跡	散布地	古墳	下石畜字雲高
14	形山遺跡	散布地	縄文/中世	水口字形山	75	上黒木遺跡	散布地	奈良/平安/中世	上石畜字上黒木
15	剛小田遺跡	集落跡	古墳	北字剛小田	76	大堀遺跡	散布地	奈良/平安	小原東字大堀
16	鶴瀬遺跡	集落跡	平安	北字中鶴瀬(ヨコ)	77	原ノ前遺跡	散布地	奈良	万力字原ノ前
17	豊平遺跡	散布地	平安	水口字豊平	78	小武家遺跡	集落跡	平安/中世	上岩下字小武家
18	芦原遺跡	散布地	平安	大工字芦原	79	三宮寺遺跡	散布地	平安/中世	正德寺字三宮寺
19	大原遺跡	散布地	平安	市川字大原	80	浅間遺跡	散布地	平安/中世	三ケ所字浅間
20	神明前遺跡	散布地	平安	市川字神明前	81	九ツ原遺跡	散布地	平安/中世	正德寺字九ツ原
21	於北遺跡遺跡	散布地	平安	市川字於北	82	三枚地遺跡	散布地	平安/中世	上岩下字三枚地
22	中下西遺跡	散布地	平安	東字中下	83	屋敷遺跡	散布地	平安/中世	落合字屋敷
23	鍋島雲遺跡	散布地	平安/中世	北字鍋島雲	84	花坂遺跡	散布地	平安/中世	落合字花坂
24	熊神山築跡	墳墓	平安/中世	東字熊神山	85	正德寺前田遺跡	散布地	平安	正德寺字前田
25	篠八幡神社	神社	中世	北字神町	86	天神前北遺跡	散布地	平安	大野字天神前
26	篠八幡神社東宮殿中殿	社寺跡	中世/近世	北	87	地蔵久保遺跡	散布地	平安	落合字地蔵久保
27	篠八幡神社田出地跡	社寺跡	平安/中世	南	88	落合市畜遺跡	散布地	平安	落合字市畜
28	於北北遺跡	その他	中世/近世	市川字於北	89	天神原南遺跡	散布地	平安	七日市場字天神原
29	神明前遺跡	社寺跡	中世/近世	市川字神明前	90	宮ノ前遺跡	散布地	平安	下石畜字宮ノ前
30	西宮山遺跡	その他の墓	中世/近世	北字西宮山	91	宮ノ上遺跡	散布地	平安	下神内川字宮ノ上
31	権現窪遺跡	経塚	中世/近世	七日市場権現窪	92	玉転尊遺跡	散布地	平安	正德寺字玉転尊
32	清水神殿跡	神殿跡	近世	北字ヴウノシン	93	榎木田遺跡	散布地	平安	大野字榎木田
33	日下部遺跡	集落跡	縄文/弥生/古墳/平安/中世	小原東字大熊窪	94	雲高北遺跡	散布地	平安	下石畜字雲高
34	高源遺跡	集落跡	縄文/古墳/平安	大野字高源	95	切通西遺跡	散布地	平安	東字切通
35	立石遺跡	集落跡	縄文/奈良/平安	小原東字立石	96	久保西遺跡	散布地	平安	東字久保
36	天神前遺跡	散布地	縄文/平安/中世	正德寺字天神前	97	林間遺跡	散布地	平安	正德寺字林間
37	屋敷沿遺跡	散布地	縄文/平安/中世	下石畜字屋敷沿	98	市畜遺跡	散布地	平安	大野字市畜
38	柿木原遺跡	集落跡	縄文/古墳	小原西字柿木原	99	前田遺跡	散布地	平安	下神内川字前田
39	上石畜原屋敷遺跡	散布地	縄文/平安	上石畜字原屋	100	平塚遺跡	散布地	平安	上神内川字平塚
40	大久保遺跡	散布地	縄文/平安	東字大久保	101	古原遺跡	散布地	平安	三ケ所字古原
41	切通南遺跡	散布地	縄文/平安	東字切通	102	久保遺跡	散布地	平安	東字久保
42	天神前東遺跡	散布地	縄文/平安	大野字天神前	103	堤下遺跡	散布地	平安	西字堤下
43	中島遺跡	散布地	縄文/平安	東字中島	104	堀之内遺跡	散布地	平安	落合字堀之内
44	藤の木遺下遺跡	散布地	縄文/平安	東字藤の木遺下	105	間之出東遺跡	散布地	平安	正德寺字間之出
45	金原遺跡	散布地	縄文/平安	落合字金原	106	切通東遺跡	散布地	平安	東字切通
46	小金田遺跡	散布地	縄文	上岩下字小金田	107	田屋之前遺跡	散布地	平安	落合字田屋之前
47	寺の下遺跡	散布地	縄文	小原西字寺の下	108	鷹田遺跡	その他の墓	中世/近世	山根字鷹田
48	八王子遺跡	集落跡	縄文	小原東字八王子	109	東田遺跡	社寺跡	中世/近世	東字東田
49	久保田遺跡	散布地	縄文	東字久保田	110	下河原遺跡	その他	中世/近世	東字下河原
50	上手原遺跡	散布地	縄文	上石畜字上手原	111	切通北遺跡	その他	中世/近世	東字切通
51	村西遺跡	散布地	縄文	東字村西	112	宮前義宗館跡	城館跡	中世	小原東字小山
52	豊司遺跡	散布地	縄文	東字豊司	113	宮前義宗館跡	城館跡	中世	小原西字八王子
53	丸山遺跡	散布地	縄文	東字丸山	114	松原遺跡	散布地	中世	上神内川字松原
54	雲高東遺跡	散布地	縄文	下石畜字雲高	115	城沢堀屋敷跡	城館跡	中世	上神内川字城ノ前
55	長田遺跡	散布地	縄文	山根字長田	116	落合館跡	城館跡	中世	落合字屋敷
56	延命寺遺跡	集落跡	弥生/古墳/平安	落合字延命寺	117	久之下遺跡	散布地	中世	正德寺字久之下
57	雲高南遺跡	散布地	弥生/古墳	下石畜字雲高	118	大野館跡	城館跡	中世	大野字三十六
58	堀ノ内遺跡	集落跡	弥生/平安	上石畜字堀ノ内	119	上野氏屋敷	城館跡	近世	東字久保
59	屋敷沿遺跡	集落跡	古墳/平安/中世	万力字屋敷沿	120	富士原	富士原	近世	上万力字番屋
60	金山林遺跡	集落跡	古墳/平安	上石畜字金山林	121	御行橋	慣習遺跡	近世	万力字北川林
61	千塚遺遺跡	散布地	古墳/平安	落合字千塚遺	122	笛吹川堤防跡群	その他(堤防群)	近世/近現代	

第３章　調査の方法

第１節　調査の方法

調査区の形状に即して５ｍ方眼のグリッドを設定した。北西隅（X=-31647.0m、Y=14953.0m）を起点として東西に数字、南北にアルファベットの名称を付した。軸線の回転は N-6.715°-W である（第３図）。測量成果は世界測地系とした。

表土掘削はバックホウ 0.25㎥で行い、発生土は隣接する事業地内に仮置きした。表土掘削の重機運転は有限会社宮脇工業が行った。表土の掘削後、人力で精査を行い、遺物包含層掘削、および遺構の検出を行った。検出遺構は順に番号を付し、人力で遺構の掘削・記録を行った。

遺物包含層及び遺構から出土した遺物は順に番号を付して、トータルステーションを使用して位置を記録し取り上げを行った。小破片については一括出土遺物として取り上げた。

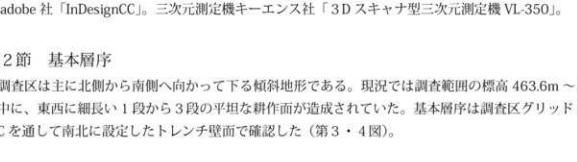
遺構平面図・セクション図・エレベーション図は、トータルステーションを使用して計測し作図した。セクション図は手書きも併用した。全体図・微細図はポール撮影やドローンによる空中撮影の写真も使用し、写真計測も併用して作図した。遺構・遺物の記録写真は一眼レフカメラで、35mm モノクロネガフィルムとデジタルカメラを併用して撮影した。

整理作業は出土遺物の水洗、注記、接合、実測遺物の選定、実測、トレース、写真撮影、図版作成、調査報告書編集、版下データ作成を行った。遺物の実測は手描き及び三次元測定機を用いて行った。トレースから調査報告書の版下データ作成までは、デザインソフト等を使用してデジタルデータで行った。遺物写真は一眼レフデジタルカメラで撮影した。

＜使用システム＞トータルステーション TOPCON SOKKIA SET5XS。電子平板 Panasonic TOUGHBOOK CF-19。遺構実測支援ソフト CUBIC 社「遺構くん」電子平板対応。写真計測ソフト Agisoft 社「PhotoScan Professional」。デザインソフト adobe 社「illustratorCC」。写真ソフト adobe 社「PhotoshopCC」。編集ソフト adobe 社「InDesignCC」。三次元測定機キーエンス社「３Ｄスキャナ型三次元測定機 VL-350」。

第２節　基本層序

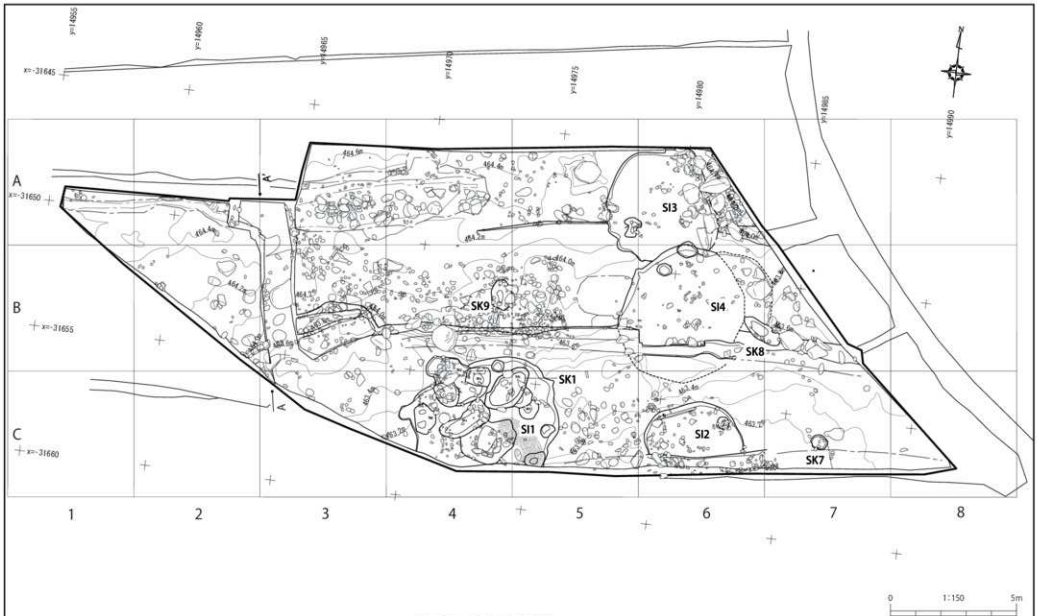
調査区は主に北側から南側へ向かって下る傾斜地形である。現況では調査範囲の標高 463.6m ～ 465.0m の中に、東西に細長い１段から３段の平坦な耕作面が造成されていた。基本層序は調査区グリッド２Ａから２Ｃを通して南北に設定したトレンチ壁面で確認した（第３・４図）。



調査区南北セクション

1　灰黄褐色 (10YR4/2) シルト　締まりややあり　粘性ややあり　[表土　ブドウ耕作土]
2　灰黄褐色 (10YR5/2) 粘土　締まりあり　粘性あり　径１mm白色粒 3%　[(新) 水田床土 (灰色)]
3　黄褐色 (10YR5/6) 粘土　締まりあり　粘性あり　径１mm白色粒 3%　[(新) 水田床土 (黄色)]
4　灰黄褐色 (10YR5/2) 粘土　締まりあり　粘性あり　径１mm黄色粒 1%　[(旧) 水田床土 (灰色)]
5　灰褐色 (7.5YR/5/2) 粘土　締まりあり　粘性あり　径１mm赤色粒 3%　[(旧) 水田床土 (灰色)]
6　オリーブ褐色 (2.5Y4/6) 粘土　締まりあり　粘性あり　径１mm黄色粒 5%　径１mm白色粒 3%　[(旧) 水田床土 (黄色)]
7　黒褐色 (10YR3/2) シルト　締まりあり　粘性あり　径５mm炭化粒 1%　径２mm白色粒 5%　[遺物包含層]
8　暗褐色 (10YR3/3) シルト　締まりあり　粘性あり　径２mm白色粒 2%　[地山 (石積みの影響あり)]
9　にぶい黄褐色 (10YR5/4) 砂質土　締まりあり　粘性弱い　径 10 cm亜角礫 3%　径２mm白色粒 30%　[地山 (礫少ない)]
10　黄褐色 (10YR5/6) 砂質土　締まりあり　粘性弱い　径 10 cm亜角礫 20%　径 20 cm亜角礫 10%　径２mm白色粒 10%　[地山 (巨礫多い) 礫層]

第３図　基本層序


y=14955
y=14960
y=14965
y=14970
y=14975
y=14980
y=14985
y=14990
x=-31645
A
x=-31650
B
x=-31655
C
x=-31660
1
2
3
4
5
6
7
8
SI3
SI4
SK9
SK8
SK1
SI1
SI2
SK7
0
1:150
5m

第４図　調査区全体図

第４章　調査の成果

第１節　調査の概要（第１図、写真図版１）

調査区は標高が 463.6m ～ 465.0m の地点で、傾斜度が約６度の斜面地である。３段の平坦面が造成され、東西に細長い段々のブドウ畑である。以前は水田で牛による犂耕が行われていたとされる。調査区は概ね東西 40 m、南北 15 m の台形である。５m方眼のグリッド（１Ａから８C）を設定し調査を行った。

小揚遺跡は主に平安時代の散布地として、およそ 100 m四方の規模で周知されている。今回の調査地点では縄文時代の遺構・遺物が主体となり出土した。検出された遺構は竪穴４基（ＳＩ１～４）、土坑９基（ＳＫ１～９）である。検出された遺物は縄文時代中期後半、後期初頭の土器を主体とし整理箱 17 箱分出土している。２B・３B・３C グリッドにまたがり、新しい水田層の下に古い水田層を検出したが、出土遺物は少量の縄文土器のみで、平安時代や中近世の遺物は出土せず、古い水田層の時代を推定できる遺物は出土していない。斜面を造成した水田を耕作しているため、床土内に土器が拡散していた。住居をとらえにくかったが、牛による犂耕をしていたということから、東西に細長い水田区画の中で、遺構内の遺物も遺構の枠をはみ出して、東西方向に拡散し移動していることが考えられた。

第２節　遺構・遺物

【竪穴】１号竪穴（ＳＩ１）（第５～７図、写真図版１）４B～５Ｃグリッドに位置する。南側は石積みに攪乱されている。焼土は検出していないが中央部で炉状の石組を検出した。石組の西側で石器製作時に産出されたと考えられる黒曜石の微細剥片集中箇所を検出した。検出した範囲で規模が 5.5 m程度の円形と考えられる。遺構確認面からの深さは 10 ～ 20cm である。**２号竪穴（ＳＩ２）**（第８図、写真図版１）６Ｃグリッドに位置する。重複関係はない。南側は石積みに攪乱されている。炉は検出していない。ピットを北西で１基、北壁の一部で周溝を検出した。検出した範囲で規模が４m程度の円形と考えられる。遺構確認面からの深さは 10 ～ 30cm である。**３号竪穴（ＳＩ３）**（第９図、写真図版１）５A～６Ｂグリッドに位置する。重複関係は SI4 に切られる。炉は検出していない。ピットは南側で２基検出した。検出した範囲で規模が 4.5 m程度の円形と考えられる。遺構確認面からの深さは 10 ～ 50cm である。**４号竪穴（ＳＩ４）**（第 10 図、写真図版２）５B～６Ｂグリッドに位置する。重複関係は SI3 を切る。南側は石積みに攪乱されている。炉は検出していない。ピットは北西で１基検出した。検出した範囲で規模が５m程度の円形と考えられる。遺構確認面からの深さは 10 ～ 30cm である。

【土坑】１号土坑（ＳＫ１）（第５・６図、写真図版２）４C～５Ｃグリッドに位置する１号竪穴内の土坑。長さ 2.2 m、幅 1.6 m、深さ 80cm。**２号土坑（ＳＫ２）**（第５・６図）４B～４Ｃグリッドに位置する１号竪穴内の土坑。長さ 2.4 m、幅 1.9 m、深さ 30cm。**３号土坑（ＳＫ３）**（第５・６図）４Ｃグリッドに位置する１号竪穴内の土坑。長さ１m、幅 0.8 m、深さ 80cm。**４号土坑（ＳＫ４）**（第５～７図）４Ｃグリッドに位置する１号竪穴内の土坑。長さ 2.1 m、幅１m、深さ 40cm。**５号土坑（ＳＫ５）**（第５～７図）５Ｃグリッドに位置する１号竪穴内の土坑。長さ 0.8 m、幅 0.8 m、深さ 30cm。**６号土坑（ＳＫ６）**４Ｃグリッドに位置する１号竪穴内の土坑。（第５～７図）長さ 1.2 m、幅 0.9 m、深さ 60cm。**７号土坑（ＳＫ７）**（第７図）７Ｃグリッドに位置する。長さ 0.6 m、幅 0.5 m、深さ 10cm。**８号土坑（ＳＫ８）**（第 10 図）６B～７Ｂグリッドに位置する１号竪穴内の土坑。長さ 1.7 m、幅 0.7 m、深さ 40cm。**９号土坑（ＳＫ９）**（第７図）４Ｂグリッドに位置する１号竪穴内の土坑。長さ 1.2 m、幅 0.8 m、深さ 50cm。

【土器】

・１号竪穴（第 11、12 図、写真図版３）

覆土中および床面直上から多くの土器が出土したが器形のわかるものは少なく、多くが破片である。第 11 図１は口縁突起部破片で三叉状沈線などあり、井戸尻式期とみられる。２はやや肥厚した口縁部破片で

条線地文に隆線が見られる。3は隆帯で区画された肥厚口縁の土器。これらは曽利Ⅱ～Ⅲ式であろう。4～10は口縁部破片で渦巻に伴う幅広い沈線（4，5）や平行沈線（7～12）が施されている。胴部では11～18のように短線や細い綾杉状沈線などがみられる。これらは曽利Ⅳの特徴を備えているものが多い。19～24は口縁部沈線あるいは胴部にハの字文が連続する曽利Ⅴ式土器で、24には把手が付くようだが破損している。26～33は加曽利Ｅ式系で特に31～33は微隆起を伴うE4式段階。33は注ぎ穴をもつ鉢形の土器か。円形刺突の25もこの一群であろう。34は横位の貼り付け隆線のある口縁、35～37は無文の口縁部破片。36,37は中期終末の壷破片か。38～45は後期。特に38～41は沈線区画と磨消し縄文の称名寺Ⅰ式。42には微隆起や円形刺突があり、43，44には口縁に並行の沈線が走る。称名寺式期から堀之内１式であろう。45は堀之内１式の注口土器把手部。46も同時期の把手が付く鉢あるいは壷形か。47～49は中期後葉の環状突起をもつ壷形土器と思われ、特に49は終末期の双耳壷破片であろう。

第12図50～62は中期終末から後期初頭の土器。50，51は床面近くから出土した小形土器。50の体部には縄文が施されるが器面の剥落が激しく明瞭ではない。口縁下には浅い横線が入る。51は手捏ね状のつくりで無文。52～56は底部破片で55は小形の台付土器。58～62は口縁部破片。円孔と沈線や貼付文があり称名寺式から堀之内１式期。

【SK１】1～14は１号竪穴内の土坑SK１出土土器。いずれも覆土中出土。１は把手状の張り出しをもち、２は隆帯状の縦線が連続する。３は斜行沈線で内折り口縁の土器。５はつなぎ弧文の口縁。他にも沈線文・綾杉状沈線や縄文の土器がある。これらは曽利Ⅱ式期（1～3）、Ⅲ～Ⅳ式期（4・5）、Ⅳ式期（6）、Ⅴ式期（7，8）、加曽利Ｅ式系（10）などがある。12はＸ把手部分。13も縦沈線がありいずれも曽利式新段階。11は波状口縁の深鉢形土器で平行する沈線帯の間に重弧状沈線が重なり合う。鱗状の沈線のような感もあるが曽利Ⅲ～Ⅳ段階とみられる。14は覆土中位にて仰向けの状態で出土した土偶。左手先及び右半身胴体上部の破片で、右肩・胴体・首にて割れており接合。扁平なバンザイタイプの土偶。顔面は円形刺突と沈線で逆三角形状に表現され、胸部および背面には粗い沈線が数条走る。赤褐色で胎土は粗く脆い。形状からは曽利新段階とみられるが、文様からは後期初頭的な感がある。

【SK２】１は１号竪穴内土坑の覆土上部出土のＸ把手土器。頸部から胴部にかけての大破片。把手は４単位とみられ、低い隆帯で結ばれる。以下には大きな渦巻き文があり空間部は細い条線が密集。曽利Ⅳ式期であろう。

【SK５】１はSK5覆土出土で無文の土器。

【竪穴の時期】以上の土器について第11図1，3，4，9，16，29，34，35，37，48，49，第12図50～52，62が１号竪穴床近くから出土していることから混入はあるものの、本址の時期は曽利Ⅳ式期を中心とした中期終末と考えられる。

・２号竪穴（第13、14図、写真図版４）

覆土中および床面直上から多くの土器が出土したが殆どが破片。第13図１は他の土器とは異なり砂粒多い胎土緻密な破片。集合沈線の五領ヶ台式期か。２は口縁部破片で、井戸尻～曽利Ⅰ式期か。４～７は長胴形の胴部破片で、８～10を含め曽利Ⅱ式期であろう。３は把手破片で曽利Ⅰ～Ⅱ式期。11～16は肥厚帯口縁の渦巻き文などを含む曽利Ⅲ～Ⅳ式期。19、21は曽利式終末期で特に19は壷形土器頸部付近破片か。22～34は加曽利Ｅ式系の土器。微隆起文（22～25，29，33）等、円形刺突（24，25）等がある。36～第14図74は後期の土器。まず37～49は沈線区画と磨消し縄文主体の称名寺Ⅰ式の一群。50～64は沈線等を中心とした称名寺式から堀之内１式。特に58，61，63は口縁部で堀之内１式。65は無文で小型の埦形土器。66～68は口縁部あるいは口縁装飾部破片で注口部（67，69）もみられる。称名寺式～堀之内１式段階である。71は土器片利用の円盤。

【竪穴の時期】以上の土器の内、第13図2，3，8，10，16，19～21，24～28，30～34、第14図40，41，44～48，50～58，60～62，65～67，69，71等が下層から床面の出土土器であり、混入はあるものの特にまとまりのある土器群から判断すると、本竪穴は称名寺Ⅰ式期の住居であろう。

・3号竪穴（第15、16図、写真図版5）

覆土および床面直上から破片が出土。多くが中期後半で、曽利Ⅰ式（第15図1、2）、Ⅰ～Ⅱ式（同図3～35）、Ⅱ～Ⅲ式（同図36～51，第16図52～55）、Ⅲ～Ⅳ式（第16図56～67）、Ⅳ～Ⅴ式（同図69，70）、加曽利E式系（同図71～81）を含む。まず第15図では1，2が立体的な把手部分破片で2はpit1からの出土。3，6，8，9には刻目が連続する太めの隆帯がある。12，13は重弧文の口縁部破片。18～20は斜格子状の隆線が頸から胴上部に巡るもの。42～45は口縁部破片で幅広の沈線などが走る。39は肥厚帯口縁の一部か。47，48，51等の胴部破片では細い条線が縦方向に施されている。第16図57～61は沈線で区画されるくびれのゆるやかな器形の口縁部破片。67はX把手付土器の把手部破片。加曽利E式系とした71～81であるが、特に微隆起をもつ79や80はE4式段階であろう。その他84～87は縄文、88～90は無文であるが89は浅鉢、90は壷形土器であろう。91も無文であるが、端部が平坦であることから器台形土器と思われる。92～95は底部。96～99は壷形をなすが特に97～99は有孔鍔付土器である。いずれも孔は鍔を貫通。100は土器片利用の円盤。101は堀之内式土器破片。

【竪穴の時期】以上の土器片の内、第15図1，3，7～9，14，24，30，35，41，46，50，第16図54，56，67，70，72，75，86，90，94，95，97等が遺構内の下層から床面出土である。このことから本竪穴遺構は曽利Ⅱ式ないしⅢ期を中心とした時期と考えられる。

・4号竪穴（第17、18図、写真図版6）

覆土中および床面直上から曽利古段階から新段階・後期前葉までの土器片が出土。第17図1は曽利Ⅰ式期の突起部破片で2も類する。3～9は曽利Ⅰ～Ⅱ式期と思われ、連続刻目の隆線が口縁部（5）や頸部に横走（7）あるいは胴部に縦走する（9）ものがある。4は波状を含めて三本隆線が弧を描いて頸部から胴部に走る。10～21は曽利Ⅱ式を中心とした破片。深鉢の胴部破片が多いようだ（11，13～17）。22～30は曽利Ⅲ～Ⅳ式期とみられる破片。22，23は肥厚帯口縁でやや古段階、24はつなぎ弧文のやや新段階か。31～35は曽利Ⅳ式期頃とみられるもので、くびれの少ない器形（32）やX把手部分破片（34）もある。36～42は磨消縄文や微隆起のみられる加曽利E式系の土器。40～42を含めE4式段階が多い。43，44は中期末から後期初頭であろう。第18図45～54は後期称名寺Ⅰ式から堀之内1式期。特に45は袋状の口縁で「の」字状の貼付が特徴。46と共に称名寺式Ⅰ式期。49～54は堀之内1式であろう。55～57は縄文が施される中期末から後期の土器。58～65は無文の口縁部破片。口縁が内側に肥厚する58や61は曽利古式段階であろう。66，67は細めの隆帯が貼り付けられるが66は壷形か。68は底部付近、69は台付き、70は手捏ねのミニチュア土器。72，73は底部。端部が平坦な74や75は台付土器あるいは器台形土器であろう。特に75には透かしの円孔が二箇所に残り、縄文が施されている。71は土器片利用の円盤形土製品。

【SK8】1～9がある。条線や沈線、肥厚帯口縁付近などの破片。曽利ⅢからⅣ式期（1～4）、堀之内1式の口縁破片（5）、縄文（6，7）、無文（8，9）などがある。9は端部が平坦なことから器台形土器であろうか。

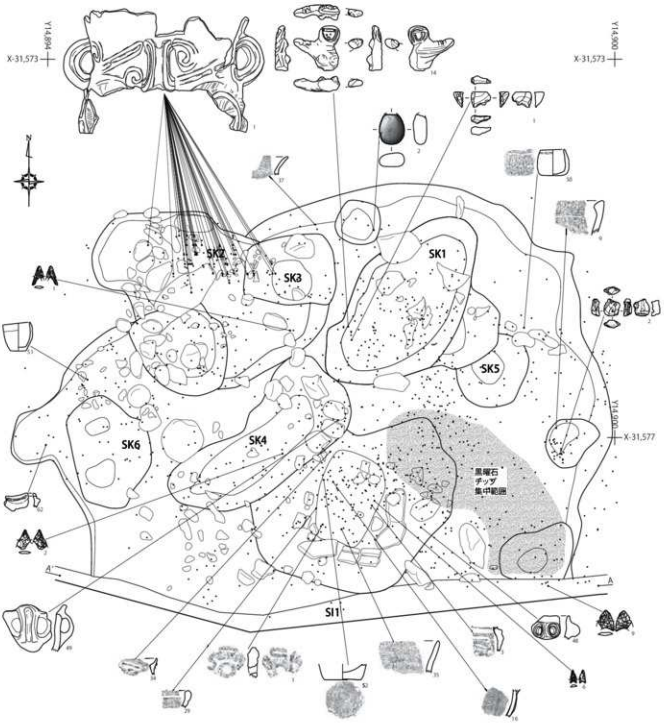
【竪穴の時期】以上の土器の内、第4号竪穴内での下層から床面にかけての出土は第17図5，6，10，14，21，23，25，26，31，34，35，36，39，42，第18図45、46，50，51，53，55～57，59，60，62～67，70～73である。これらは曽利Ⅱ式～Ⅳ式、後期前葉を含む。称名寺式期の2号竪穴に隣接することからこれらの混入を考慮すると、本址の時期は曽利後半期（Ⅲ～Ⅳ式期）になろうか。

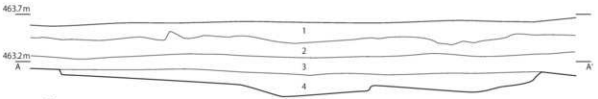
・7号土坑、9号土坑（第18図、写真図版6）

【SK7】1は縄文の付けられた加曽利E式系でE3~E4段階であろう。【SK9】沈線のみの1は堀之内1式、縄文とつなぎ弧文状の沈線がある2は曽利式系あるいは加曽利E式系の中期終末期であろう。

【石器】（第19～21図、写真図版7）

第19図10は楔状に両極に剥離のある剥片、18は石匙、23は微細剥離が並ぶ剥片、28は異形石器、38は石核、その他は石鏃である。第20図1～3は石核、8，10は磨製石斧、11，12，18は打製石斧、13は粗製石匙、その他は剥片である。第21図1～10，13，14，18，21は磨石・凹石、11，16，17，19は台石、12は石棒、15は多孔石、20は石皿である。





SI1

1　灰黄褐色 (10YR4/2) シルト　締まりややあり　粘性ややあり　[表土　ブドウ耕作土]

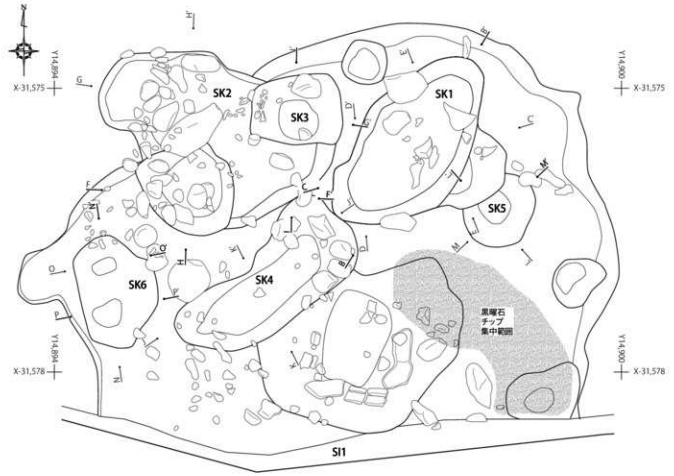
2　灰黄褐色 (10YR5/2) 粘土　締まりあり　粘性あり　径 1 mm黄色粒 1％　[水田床土 (灰色)]

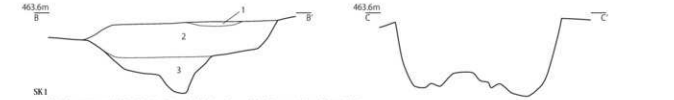
3　暗褐色 (10YR/3/3) シルト　締まりあり　粘性あり　径 2 mm黄色粒 3％　径 1 mm白色粒 1％

4　暗褐色 (10YR/3/4) シルト　締まりあり　粘性あり　径 2 mm黄色粒 2％　径 1 mm白色粒 3％　径 2 mm炭化粒 1％　[SI1]

0　1:40　1m

第５図　１号竪穴（１）　遺構



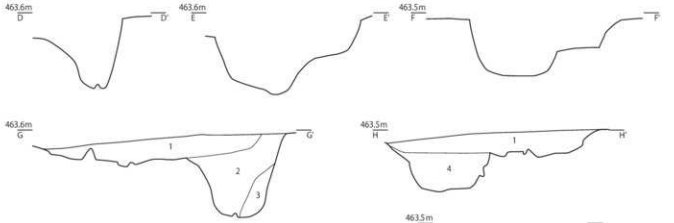


SK1

1　黄褐色 (10YR5/6) 粘土　締まりあり　粘性あり　径 1 mm白色粒 3%　[水田床土 (灰色)]

2　褐色 (10YR4/4) シルト　締まりあり　粘性あり　径 5 mm白色粒 3%　径 5 mm黄色粒 3%

3　暗褐色 (10YR3/4) シルト　締まりあり　粘性あり



SK2・SK3

1　褐色 (10YR4/4) シルト　締まりあり　粘性あり　径 2 mm白色粒 2%　径 2 mm黄色粒 2%　[SK2]

2　灰黄褐色 (10YR4/2) シルト　締まりあり　粘性あり　径 2 mm白色粒 5%　径 2 mm黄色粒 2%　[SK3]

3　褐色 (7.5YR4/4) シルト　締まりあり　粘性あり　径 1 mm白色粒 1%　径 2 mm黒色粒 1%　[SK3]

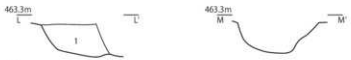
4　暗褐色 (10YR3/3) シルト　締まりあり　粘性あり　径 1 mm白色粒 2%　径 1 mm炭化粒 1%

第６図　１号竪穴（２）　遺構

SK4

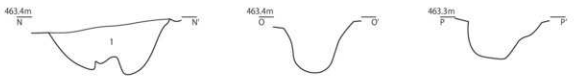
1　黒褐色 (10YR3/2) シルト　締まりあり　粘性あり　径 2 ㎜白色粒 2%　径 2 ㎜黄色粒 2%　径 1 ㎜赤色粒 1%

2　にぶい黄褐色 (10YR4/3) シルト　締まりあり　粘性あり　径 1 ㎜白色粒 2%



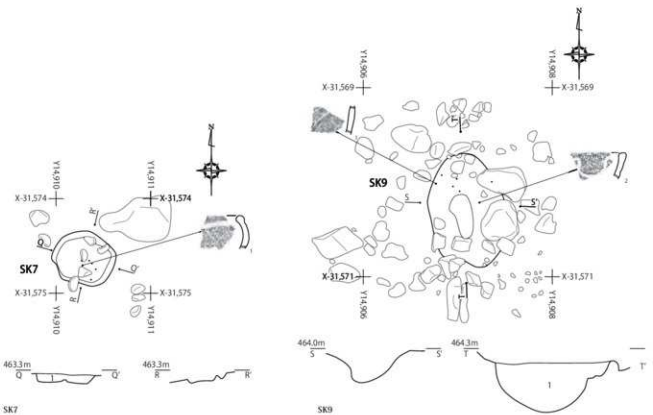
SK5

1　暗褐色 (10YR3/4) シルト　締まりあり　粘性あり　径 2 ㎜白色粒 3%　径 2 ㎜黄色粒 2%　径 2 ㎜炭化粒 1%



SK6

1　暗褐色 (10YR3/4) シルト　締まりあり　粘性あり　径 2 ㎜白色粒 2%　径 2 ㎜炭化粒 1%



SK7

1　暗褐色 (10YR3/3) シルト　締まりあり　粘性あり　径 1 ㎜黄色粒 1%

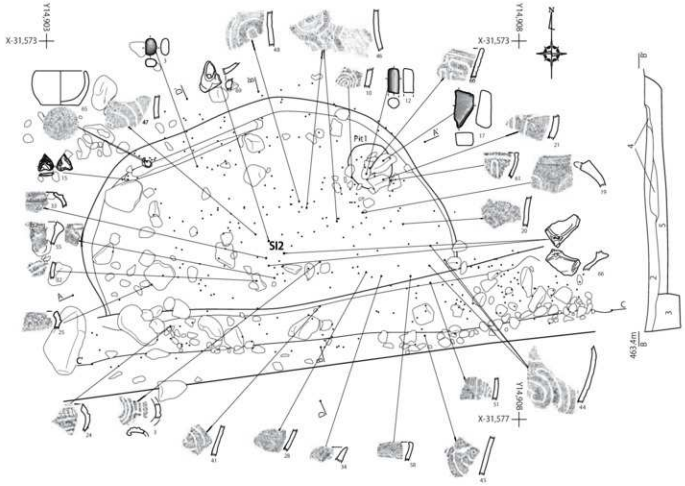
SK9

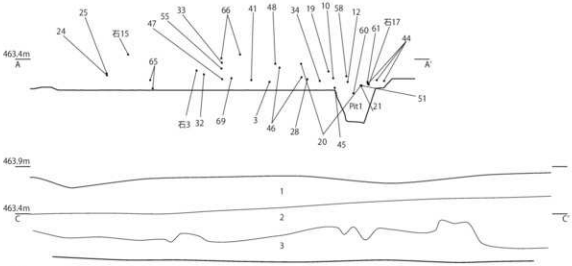
1　黒褐色 (10YR2/2) シルト　締まりあり　粘性ややあり

径 5 ㎜炭化粒 1%　径 2 ㎜黄色粒 3%　径 2 ㎜白色粒 2%　径 2 ㎜黒色粒 2%

0　1:40　1m

第７図　１号竪穴（３）・土坑　遺構





SI2

1　灰黄褐色 (10YR4/2) シルト　締まりややあり　粘性ややあり　[表土　ブドウ耕作土]

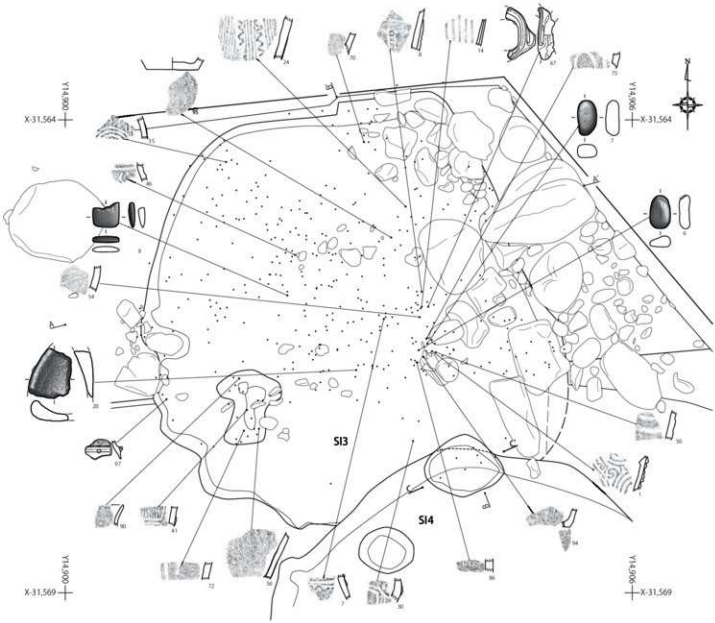
2　灰黄褐色 (10YR5/2) 粘土　締まりあり　粘性あり　径 1 mm黄色粒 1%　[水田床土 (灰色)]

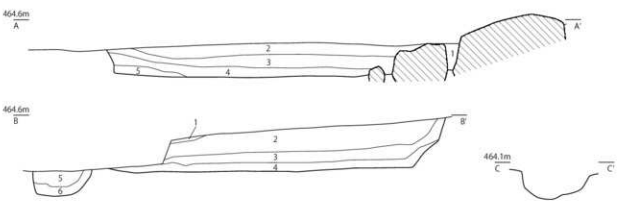
3　黒褐色 (10YR3/2) シルト　締まりあり　粘性あり　黒色褐鉄鉱多い　径 10 ～ 15 cm亜角礫 30%(石積み裏込め礫)　径 5 mm暗褐色土粒 30%　[水田地境石積み撹乱]

4　黒褐色 (10YR3/2) シルト　締まりあり　粘性あり　径 2 mm赤色粒 1%　径 2 mm黄色粒 1%　[SI2]

5　暗褐色 (10YR/3/3) シルト　締まりあり　粘性あり　径 2 mm黄色粒 3%　径 1 mm白色粒 1%　[SI2]

第８図　２号竪穴　遺構



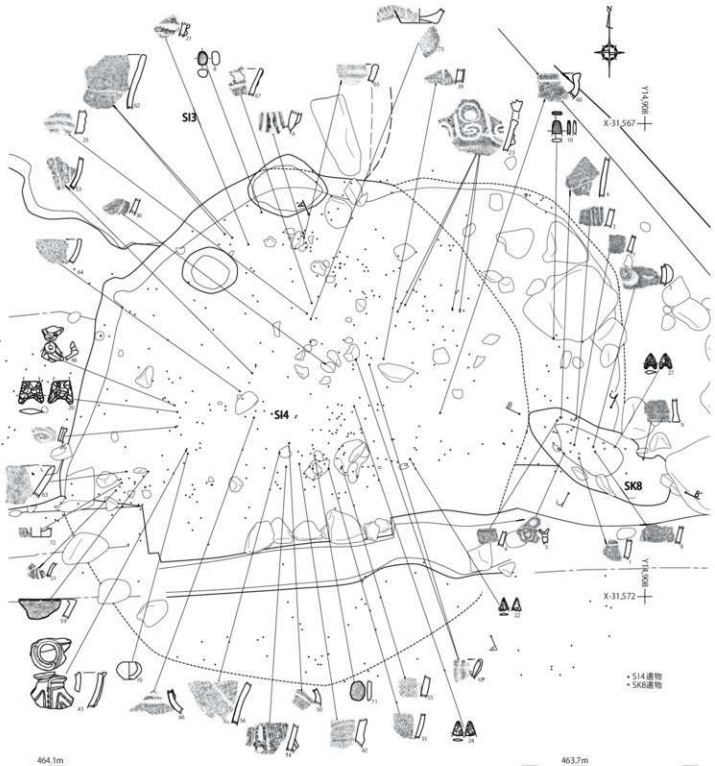


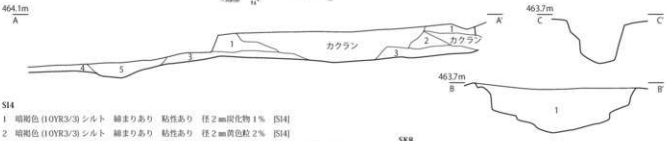
SI3

1　黒褐色 (10YR3/2) 粘土　締まりあり　粘性あり　径 5 mm黒色粒 10%　[水田床土]
2　暗褐色 (10YR3/3) シルト　締まりあり　粘性あり　径 2 mm白色粒 3%　径 5 mm黄色粒 2%　径 3 mm黒色粒 2%　径 2 mm炭化粒 1%
3　暗褐色 (7.5YR3/3) シルト　締まりあり　粘性あり　径 2 mm黄色粒 3%　径 3 cm亜角礫 1%
4　黒褐色 (10YR3/2) シルト　締まりあり　粘性あり　径 5 mm黄色粒 2%　径 10 cm亜角礫 1%
5　黒褐色 (10YR2/3) シルト　締まりあり　粘性あり　径 2 mm黄色粒 3%　径 2 mm白色粒 1%
6　暗褐色 (10YR3/3) シルト　締まりあり　粘性あり　径 1 mm白色粒 3%　径 1 mm黄色粒 3%　径 10 mm円礫 2%
7　暗褐色 (10YR3/3) シルト　締まりあり　粘性あり　径 2 mm炭化物 1%

0　1:40　1m

第９図　３号竪穴　遺構





SI4

1　暗褐色 (10YR3/3) シルト　締まりあり　粘性あり　径 2 mm炭化物 1%　[SI4]
2　暗褐色 (10YR3/3) シルト　締まりあり　粘性あり　径 2 mm黄色粒 2%　[SI4]
3　黒褐色 (7.5YR3/2) シルト　締まりあり　粘性あり　径 5 mm炭化粒 1%　径 1 mm白色粒 3%　[SI4]
4　灰黄褐色 (10YR5/2) 粘土　締まりあり　粘性あり　径 1 mm黄色粒 1%　[水田床土 (灰色)]
5　褐灰色 (10YR6/1) 粘土　締まりあり　粘性あり　径 1 mm黄色粒 1%　[水田水路]

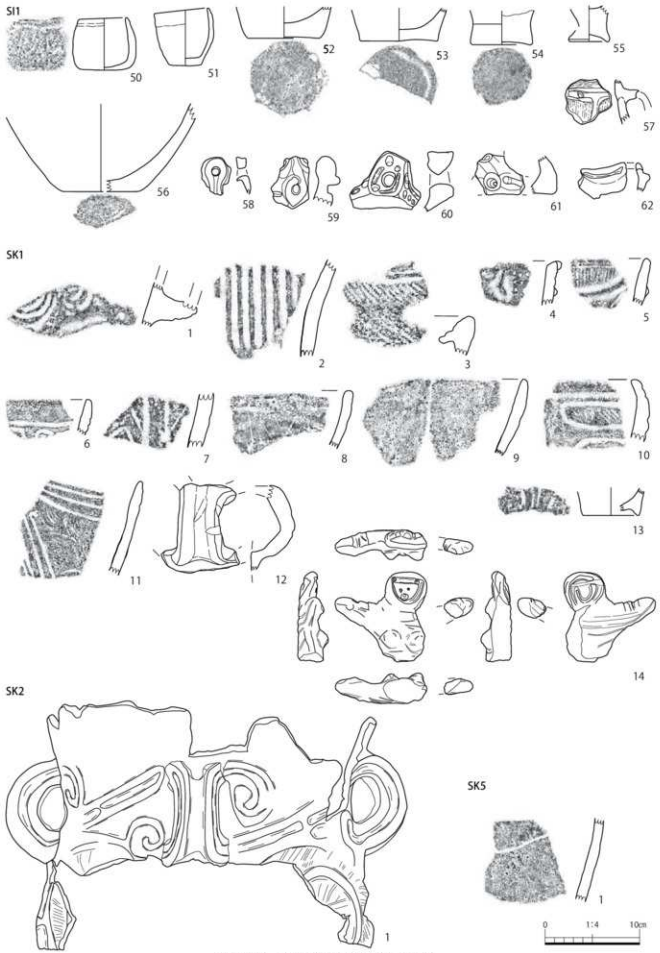
SK8

1　黒色 (7.5YR2/1) シルト　締まりあり　粘性あり　径 2 mm黄色土粒 2%

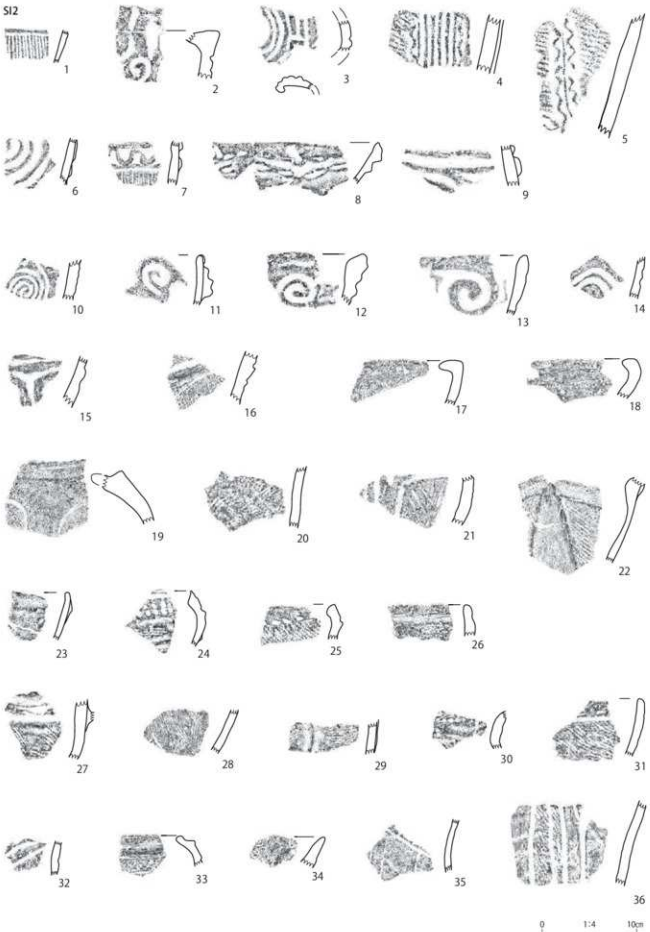
0　1:40　1m

第10図　4号竪穴　遺構

第 11 図　1 号竪穴（1）遺物（土器）



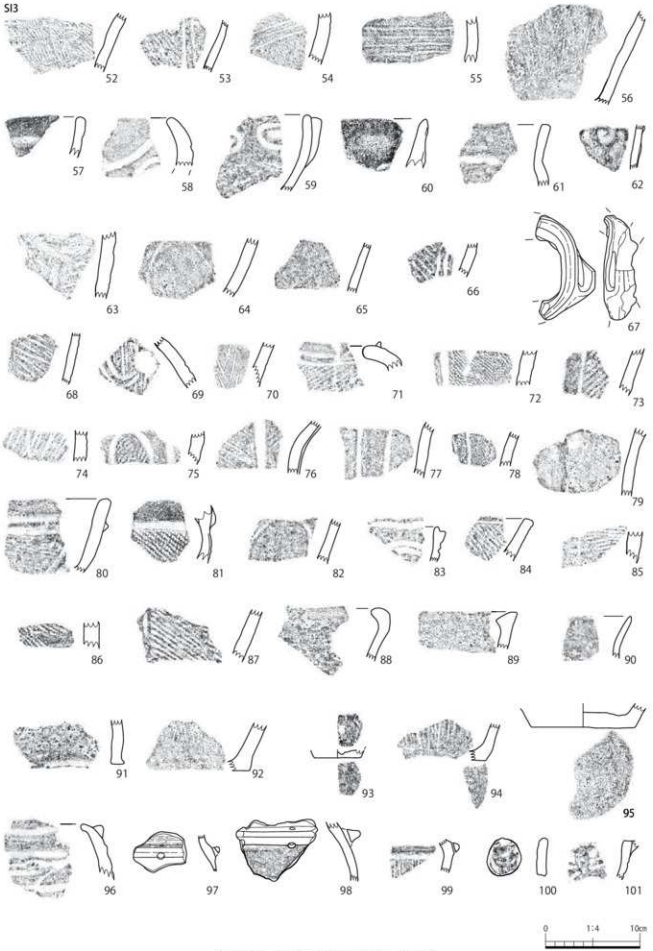
第 12 図　1 号竪穴（2）遺物（土器）



第 13 図　2 号竪穴（1）遺物（土器）

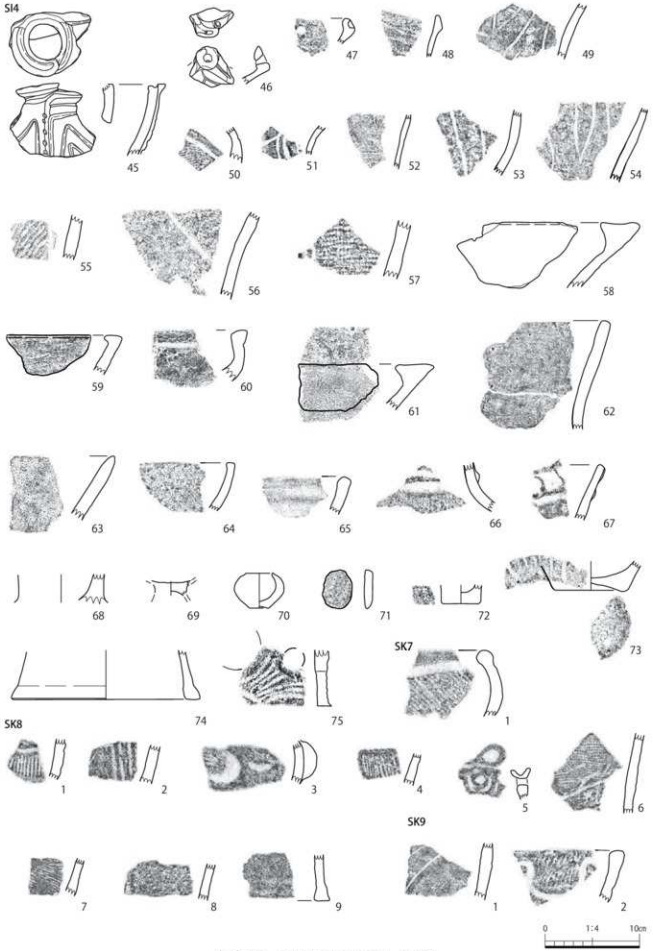
第 14 図　2 号竪穴（2）遺物（土器）

第 15 図　3 号竪穴（1）遺物（土器）

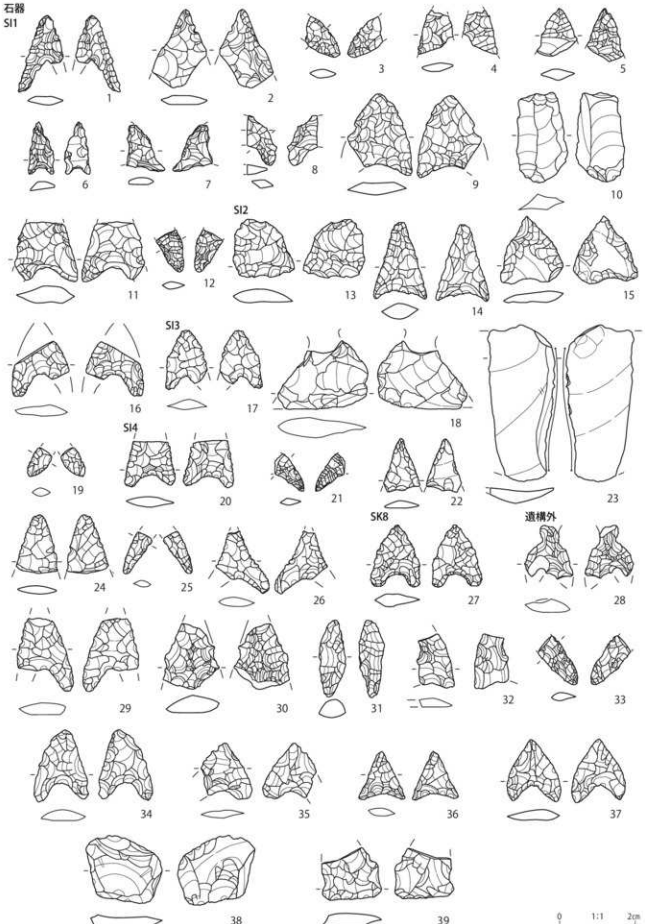


第 16 図　3 号竪穴（2）遺物（土器）

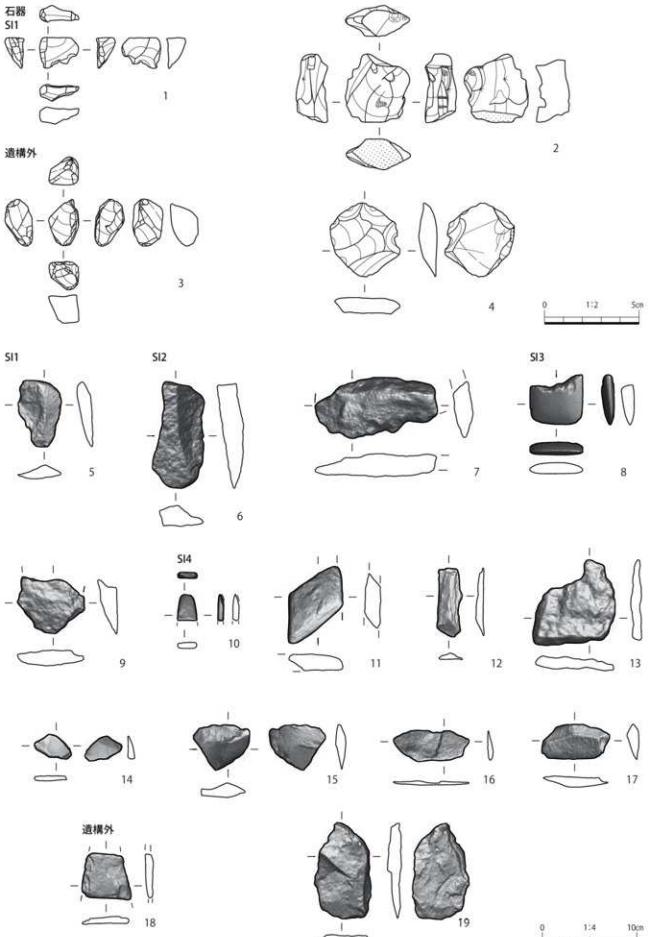
第 17 図　4 号竪穴（1）遺物（土器）



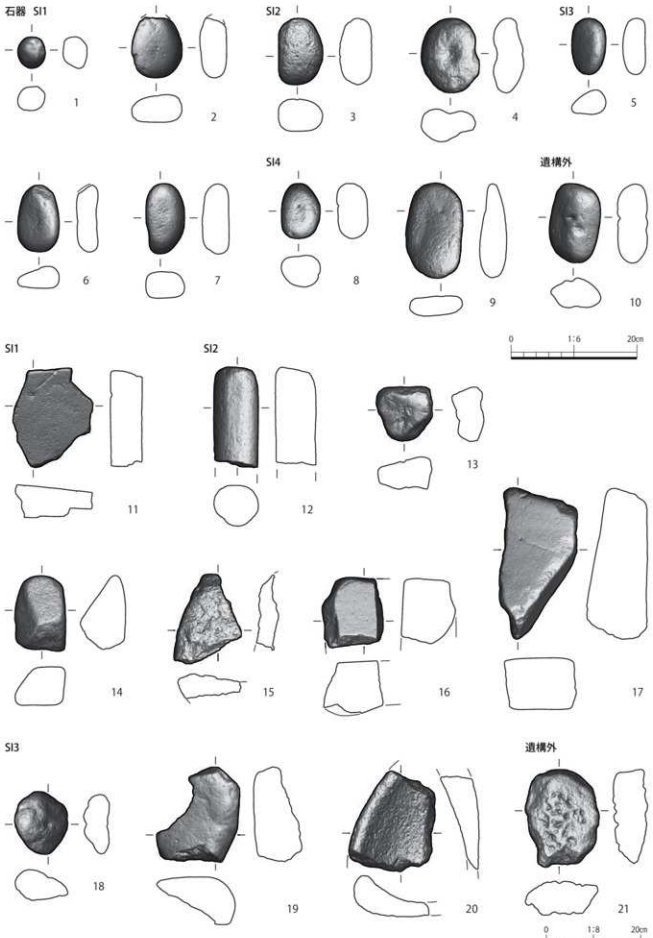
第 18 図　4 号竪穴（2）遺物（土器）



第 19 図　1～4 号竪穴（1）遺物（石器）



第 20 図　1～4 号竪穴（2）遺物（石器）



第 21 図　1～4 号竪穴（3）遺物（石器）

表2 遺物観察表

寸法 底部 輪 脚 長 名称 出土 新 備考

寸法 底部 輪 脚 長 名称 出土 新 備考

遺構名	遺物番号	図番号	写真番号	種別	器種	部位	寸法	底部	輪	脚	長	名称	出土	新	備考
SI1	1	第11図	図版2	縄文土器	縄文土器	胴部片	口縁部					無節Rl縄文	良好	白黒系	
SI1	2	第11図	図版2	縄文土器	縄文土器	胴部片	口縁部				(6.1)	無節Rl縄文	良好	白黒系	
SI1	3	第11図	図版2	縄文土器	縄文土器	胴部片	口縁部				(5.2)	無節Rl縄文	良好	白黒系	
SI1	4	第11図	図版2	縄文土器	縄文土器	胴部片	口縁部				(7.3)	無節Rl縄文	良好	白黒系	
SI1	5	第11図	図版2	縄文土器	縄文土器	胴部片	口縁部				(6.2)	無節Rl縄文	良好	白黒系	
SI1	6	第11図	図版2	縄文土器	縄文土器	胴部片	口縁部				(6.3)	無節Rl縄文	良好	白黒系	
SI1	7	第11図	図版2	縄文土器	縄文土器	胴部片	口縁部				(5.7)	無節Rl縄文	良好	白黒系	
SI1	8	第11図	図版2	縄文土器	縄文土器	胴部片	口縁部				(7.3)	無節Rl縄文	良好	白黒系	
SI1	9	第11図	図版2	縄文土器	縄文土器	胴部片	口縁部				(6.1)	無節Rl縄文	良好	白黒系	
SI1	10	第11図	図版2	縄文土器	縄文土器	胴部片	口縁部				(5.6)	無節Rl縄文	良好	白黒系	
SI1	11	第11図	図版2	縄文土器	縄文土器	胴部片	胴部				(5.4)	無節Rl縄文	良好	白黒系	
SI1	12	第11図	図版2	縄文土器	縄文土器	胴部片	胴部				(6.6)	無節Rl縄文	良好	白黒系	
SI1	13	第11図	図版2	縄文土器	縄文土器	胴部片	口縁部				(4.2)	無節Rl縄文	良好	白黒系	
SI1	14	第11図	図版2	縄文土器	縄文土器	胴部片	胴部				(5.7)	無節Rl縄文	良好	白黒系	
SI1	15	第11図	図版2	縄文土器	縄文土器	胴部片	胴部				(4.6)	無節Rl縄文	良好	白黒系	
SI1	16	第11図	図版2	縄文土器	縄文土器	胴部片	胴部				(5.6)	無節Rl縄文	良好	白黒系	
SI1	17	第11図	図版2	縄文土器	縄文土器	胴部片	胴部				(5.2)	無節Rl縄文	良好	白黒系	
SI1	18	第11図	図版2	縄文土器	縄文土器	胴部片	胴部				(6.6)	二山・撚糸L合撚Z	良好	白黒系	
SI1	19	第11図	図版2	縄文土器	縄文土器	胴部片	口縁部				(7.4)	無節Rl縄文	良好	白黒系	
SI1	20	第11図	図版2	縄文土器	縄文土器	胴部片	口縁部				(5.3)	無節Rl縄文	良好	白黒系	
SI1	21	第11図	図版2	縄文土器	縄文土器	胴部片	胴部				(8.6)	二山・撚糸L合撚Z	良好	白黒系	
SI1	22	第11図	図版2	縄文土器	縄文土器	胴部片	胴部				(7.6)	無節Rl縄文	良好	白黒系	
SI1	23	第11図	図版2	縄文土器	縄文土器	胴部片	口縁部				(7.7)	無節Rl縄文	良好	白黒系	
SI1	24	第11図	図版2	縄文土器	縄文土器	胴部片	口縁部				(5.3)	無節Rl縄文	良好	白黒系	
SI1	25	第11図	図版2	縄文土器	縄文土器	胴部片	胴部				(4.1)	無節Rl縄文	良好	白黒系	
SI1	26	第11図	図版2	縄文土器	縄文土器	胴部片	胴部				(6.3)	無節Rl縄文	良好	白黒系	
SI1	27	第11図	図版2	縄文土器	縄文土器	胴部片	口縁部				(6.4)	無節Rl縄文	良好	白黒系	
SI1	28	第11図	図版2	縄文土器	縄文土器	胴部片	口縁部				(5.4)	無節Rl縄文	良好	白黒系	
SI1	29	第11図	図版2	縄文土器	縄文土器	胴部片	口縁部				(6.2)	無節Rl縄文	良好	白黒系	
SI1	30	第11図	図版2	縄文土器	縄文土器	胴部片	口縁部				(5.6)	無節Rl縄文	良好	白黒系	
SI1	31	第11図	図版2	縄文土器	縄文土器	胴部片	口縁部				(4.4)	無節Rl縄文	良好	白黒系	
SI1	32	第11図	図版2	縄文土器	縄文土器	胴部片	胴部				(8.6)	無節Rl縄文/0段多	良好	白黒系+赤彩系	
SI1	33	第11図	図版2	縄文土器	縄文土器	胴部片	口縁部				(4.6)	無節Rl縄文/0段多	良好	白黒系+赤彩系	
SI1	34	第11図	図版2	縄文土器	縄文土器	胴部片	口縁部				(5.1)	無節Rl縄文	良好	白黒系	
SI1	35	第11図	図版2	縄文土器	縄文土器	胴部片	口縁部				(5.5)	無節Rl縄文	良好	白黒系	
SI1	36	第11図	図版2	縄文土器	縄文土器	胴部片	口縁部				(6.4)	無節Rl縄文	良好	白黒系	
SI1	37	第11図	図版2	縄文土器	縄文土器	胴部片	口縁部				(5.6)	無節Rl縄文	良好	白黒系	
SI1	38	第11図	図版2	縄文土器	縄文土器	胴部片	口縁部				(6.4)	撚糸L/0段A	良好	白黒系	
SI1	39	第11図	図版2	縄文土器	縄文土器	胴部片	口縁部				(5.8)	撚糸L/0段A	良好	白黒系	
SI1	40	第11図	図版2	縄文土器	縄文土器	胴部片	口縁部				(5.6)	無節Rl縄文/0段A	良好	白黒系	
SI1	41	第11図	図版2	縄文土器	縄文土器	胴部片	胴部				(5.6)	撚糸L/0段A	良好	白黒系	
SI1	42	第11図	図版2	縄文土器	縄文土器	胴部片	口縁部				(5.5)	無節Rl縄文/0段A	良好	白黒系	
SI1	43	第11図	図版2	縄文土器	縄文土器	胴部片	口縁部				(4.5)	撚糸L/0段A	良好	白黒系+赤彩系	
SI1	44	第11図	図版2	縄文土器	縄文土器	胴部片	口縁部				(4.6)	無節Rl/0段A	良好	白黒系+赤彩系	
SI1	45	第11図	図版2	縄文土器	縄文土器	胴部片	口縁部				(11.4)	無節Rl/0段A	良好	白黒系	
SI1	46	第11図	図版2	縄文土器	縄文土器	胴部片	胴部				(4.6)	無節Rl/0段A	良好	白黒系	
SI1	47	第11図	図版2	縄文土器	縄文土器	胴部片	口縁部				(4.5)	撚糸L/0段A	良好	白黒系+赤彩系	
SI1	48	第11図	図版2	縄文土器	縄文土器	胴部片	口縁部				(4.6)	無節Rl/0段A	良好	白黒系+赤彩系	
SI1	49	第11図	図版2	縄文土器	縄文土器	胴部片	口縁部				(11.4)	無節Rl/0段A	良好	白黒系	
SI1	50	第12図	図版2	縄文土器	縄文土器	胴部片	口縁部				(6.4)	無節Rl/0段A	良好	白黒系	
SI1	51	第12図	図版2	縄文土器	縄文土器	胴部片	口縁部				(4.5)	撚糸L/0段A	良好	白黒系+赤彩系	
SI1	52	第12図	図版2	縄文土器	縄文土器	胴部片	口縁部				(4.6)	無節Rl/0段A	良好	白黒系+赤彩系	
SI1	53	第12図	図版2	縄文土器	縄文土器	胴部片	胴部				(4.8)	撚糸L/0段A	良好	白黒系	
SI1	54	第12図	図版2	縄文土器	縄文土器	胴部片	胴部				(6.3)	無節Rl/0段A	良好	白黒系	
SI1	55	第12図	図版2	縄文土器	縄文土器	胴部片	胴部				(5.6)	無節Rl/0段A	良好	白黒系	
SI1	56	第12図	図版2	縄文土器	縄文土器	胴部片	胴部				(7.8)	無節Rl/0段A	良好	白黒系	
SI1	57	第12図	図版2	縄文土器	縄文土器	胴部片	胴部				(4.7)	無節Rl/0段A	良好	白黒系	
SI1	58	第12図	図版2	縄文土器	縄文土器	胴部片	口縁部				(4.6)	撚糸L/0段A	良好	白黒系	
SI1	59	第12図	図版2	縄文土器	縄文土器	胴部片	口縁部				(5.5)	撚糸L/0段A	良好	白黒系	
SI1	60	第12図	図版2	縄文土器	縄文土器	胴部片	口縁部				(6.2)	無節Rl/0段A	良好	白黒系	
SI1	61	第12図	図版2	縄文土器	縄文土器	胴部片	口縁部				(4.4)	無節Rl/0段A	良好	白黒系	
SI1	62	第12図	図版2	縄文土器	縄文土器	胴部片	口縁部				(4.6)	二山・撚糸L合撚Z	良好	白黒系	
SI1-2	1	第12図	図版2	縄文土器	縄文土器	胴部片	胴部				(4.6)	無節Rl	良好	白黒系	
SI1-2	2	第12図	図版2	縄文土器	縄文土器	胴部片	胴部				(10.2)	無節Rl/0段A	良好	白黒系	
SI1-2	3	第12図	図版2	縄文土器	縄文土器	胴部片	口縁部				(4.5)	無節Rl/0段A	良好	白黒系	
SI1-2	4	第12図	図版2	縄文土器	縄文土器	胴部片	口縁部				(4.7)	無節Rl/0段A	良好	白黒系	
SI1-2	5	第12図	図版2	縄文土器	縄文土器	胴部片	口縁部				(4.9)	二山・撚糸L合撚Z/0段A	良好	白黒系	
SI1-2	6	第12図	図版2	縄文土器	縄文土器	胴部片	口縁部				(5.6)	無節Rl/0段A	良好	白黒系	
SI1-2	7	第12図	図版2	縄文土器	縄文土器	胴部片	胴部				(5.1)	無節Rl/0段A	良好	白黒系	
SI1-2	8	第12図	図版2	縄文土器	縄文土器	胴部片	口縁部				(6.4)	無節Rl/0段A	良好	白黒系	
SI1-2	9	第12図	図版2	縄文土器	縄文土器	胴部片	口縁部				(8.1)	無節Rl/0段A	良好	白黒系	
SI1-2	10	第12図	図版2	縄文土器	縄文土器	胴部片	口縁部				(8.6)	無節Rl/0段A	良好	白黒系	
SI1-2	11	第12図	図版2	縄文土器	縄文土器	胴部片	口縁部				(10.6)	無節Rl/0段A	良好	白黒系	
SI1-2	12	第12図	図版2	縄文土器	縄文土器	胴部片	口縁部				(6.6)	無節Rl/0段A	良好	白黒系	
SI1-2	13	第12図	図版2	縄文土器	縄文土器	胴部片	口縁部				(8.6)	無節Rl/0段A	良好	白黒系	
SI1-2	14	第12図	図版2	縄文土器	縄文土器	胴部片	口縁部	(6.6)			(5.9)	二山・撚糸L合撚Z/無節Rl	良好	白黒系	
SI1-2	15	第12図	図版2	縄文土器	縄文土器	胴部片	胴部				(7.7)	無節Rl/0段A	良好	白黒系	
SI1-2	16	第12図	図版2	縄文土器	縄文土器	胴部片	胴部				(8.3)	撚糸L/0段A	良好	白黒系	
SI1-2	17	第12図	図版2	縄文土器	縄文土器	胴部片	胴部				(6.6)	無節Rl/0段A	良好	白黒系	
SI1-2	18	第12図	図版2	縄文土器	縄文土器	胴部片	口縁部				(6.8)	無節Rl/0段A	良好	白黒系	
SI1-2	19	第12図	図版2	縄文土器	縄文土器	胴部片	口縁部				(5.2)	無節Rl/0段A	良好	白黒系	
SI1-2	20	第12図	図版2	縄文土器	縄文土器	胴部片	胴部				(6.3)	撚糸L/0段A	良好	白黒系	
SI1-2	21	第12図	図版2	縄文土器	縄文土器	胴部片	胴部				(5.3)	無節Rl/0段A	良好	白黒系+赤彩系	
SI1-2	22	第12図	図版2	縄文土器	縄文土器	胴部片	口縁部				(6.6)	二山・撚糸L合撚Z	良好	白黒系	
SI1-2	23	第12図	図版2	縄文土器	縄文土器	胴部片	口縁部				(5.6)	無節Rl/0段A	良好	白黒系	
SI1-2	24	第12図	図版2	縄文土器	縄文土器	胴部片	口縁部				(5.6)	無節Rl/0段A	良好	白黒系	
SI1-2	25	第12図	図版2	縄文土器	縄文土器	胴部片	口縁部				(5.5)	二山・撚糸L合撚Z	良好	白黒系	
SI1-2	26	第12図	図版2	縄文土器	縄文土器	胴部片	口縁部				(5.8)	無節Rl/0段A	良好	白黒系+赤彩系+赤彩系	
SI1-2	27	第12図	図版2	縄文土器	縄文土器	胴部片	胴部				(6.3)	無節Rl/0段A	良好	白黒系	
SI1-2	28	第12図	図版2	縄文土器	縄文土器	胴部片	胴部				(5.6)	無節Rl/0段A	良好	白黒系	
SI1-2	29	第12図	図版2	縄文土器	縄文土器	胴部片	胴部				(5.6)	撚糸L/0段A	良好	白黒系	
SI1-2	30	第12図	図版2	縄文土器	縄文土器	胴部片	口縁部				(5.5)	二山・撚糸L合撚Z	良好	白黒系	
SI1-2	31	第12図	図版2	縄文土器	縄文土器	胴部片	口縁部				(6.1)	二山・撚糸L合撚Z	良好	白黒系	
SI1-2	32	第12図	図版2	縄文土器	縄文土器	胴部片	胴部				(5.5)	撚糸L/0段A	良好	白黒系	
SI1-2	33	第12図	図版2	縄文土器	縄文土器	胴部片	口縁部				(5.2)	二山・撚糸L合撚Z/0段A	良好	白黒系+赤彩系+赤彩系	
SI1-2	34	第12図	図版2	縄文土器	縄文土器	胴部片	口縁部				(5.5)	無節Rl/0段A	良好	白黒系	
SI1-2	35	第12図	図版2	縄文土器	縄文土器	胴部片	胴部				(5.6)	無節Rl/0段A	良好	白黒系	
SI1-2	36	第12図	図版2	縄文土器	縄文土器	胴部片	胴部				(9.6)	撚糸L/0段A	良好	白黒系	
SI1-2	37	第12図	図版2	縄文土器	縄文土器	胴部片	口縁部				(8.7)	無節Rl/0段A	良好	白黒系	
SI1-2	38	第12図	図版2	縄文土器	縄文土器	胴部片	口縁部				(5.6)	無節Rl/0段A	良好	白黒系	
SI1-2	39	第12図	図版2	縄文土器	縄文土器	胴部片	口縁部				(6.2)	無節Rl/0段A	良好	白黒系	
SI1-2	40	第12図	図版2	縄文土器	縄文土器	胴部片	口縁部				(5.6)	無節Rl/0段A	良好	白黒系+赤彩系+赤彩系	
SI1-2	41	第12図	図版2	縄文土器	縄文土器	胴部片	胴部				(6.5)	無節Rl/0段A	良好	白黒系	
SI1-2	42	第12図	図版2	縄文土器	縄文土器	胴部片	胴部				(5.6)	無節Rl/0段A	良好	白黒系	
SI1-2	43	第12図	図版2	縄文土器	縄文土器	胴部片	胴部				(7.6)	無節Rl/0段A	良好	白黒系	
SI1-2	44	第12図	図版2	縄文土器	縄文土器	胴部片	胴部				(11.1)	無節Rl/0段A	良好	白黒系	
SI1-2	45	第12図	図版2	縄文土器	縄文土器	胴部片	胴部				(6.5)	無節Rl/0段A	良好	白黒系	
SI1-2	46	第12図	図版2	縄文土器	縄文土器	胴部片	胴部				(6.6)	無節Rl/0段A	良好	白黒系	
SI1-2	47	第12図	図版2	縄文土器	縄文土器	胴部片	胴部				(5.5)	無節Rl/0段A	良好	白黒系	
SI1-2	48	第12図	図版2	縄文土器	縄文土器	胴部片	胴部				(7.5)	無節Rl/0段A	良好	白黒系	
SI1-2	49	第12図	図版2	縄文土器	縄文土器	胴部片	胴部				(7.8)	無節Rl/0段A	良好	白黒系	
SI1-2	50	第12図	図版2	縄文土器	縄文土器	胴部片	胴部				(4.6)	無節Rl/0段A	良好	白黒系	
SI1-2	51	第12図	図版2	縄文土器	縄文土器	胴部片	胴部				(6.6)	無節Rl/0段A	良好	白黒系	
SI1-2	52	第12図	図版2	縄文土器	縄文土器	胴部片	胴部				(5.5)	撚糸L/0段A	良好	白黒系	
SI1-2	53	第12図	図版2	縄文土器	縄文土器	胴部片	胴部				(4.7)	無節Rl/0段A	良好	白黒系	
SI1-2	54	第12図	図版2	縄文土器	縄文土器	胴部片	口縁部				(4.6)	無節Rl/0段A	良好	白黒系	
SI1-2	55	第12図	図版2	縄文土器	縄文土器	胴部片	口縁部				(4.6)	二山・撚糸L合撚Z/0段A	良好	白黒系	
SI1-2	56	第12図	図版2	縄文土器	縄文土器	胴部片	胴部				(5.8)	無節Rl/0段A	良好	白黒系	

遺構番号	遺物通番	図番号	写真番号	種別	器種	部位	口径・底	底径・幅	器高・厚	色調	焼成	新土	備考
92	43	第14図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	口縁部			(3.6)	半熟色白10R/6	良好	白粒・赤石	
92	44	第14図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	胴部			(4.8)	半熟色白10R/6	良好	白粒・赤石	
92	45	第14図	図版4	縄文土器	海棲貝殻	口縁部カーボン残存	(40.0)	7.6	7.3	半熟色白10R/6	良好	白粒・赤石	
92	46	第14図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	口縁部			(4.2)	半熟暗色白10R/5	良好	白粒・赤石	
92	47	第14図	図版4	縄文土器	浅バケ鉢	口縁部			(6.3)	半熟色白10R/6	良好	白粒・赤石	
92	48	第14図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	胴部			(4.0)	半熟色白10R/6	良好	白粒・赤石	
92	49	第14図	図版4	縄文土器	浅バケ鉢	口縁部			(5.1)	半熟色白10R/6	良好	白粒・赤石・黒鉱石	
92	50	第14図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	口縁部			(3.2)	半熟色白10R/6	良好	白粒・赤石	
92	51	第14図	図版4	縄文土器	一部円筒				(5.1)	半熟色白10R/6	良好	白粒・赤石	
92	52	第14図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	底部			(2.8)	半熟色7.5YR/6	良好	白粒・赤石	
92	53	第14図	図版4	縄文土器	浅鉢形土器	ミガキ内面			(1.8)	半熟暗色2.5YR/5	良好	白粒・赤石	
92	54	第14図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	口縁部			(3.4)	半熟暗色10R/5	良好	白粒・赤石	
93	1	第15図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	口縁部			(7.2)	半熟暗色10R/5	良好	白粒・赤石・黒鉱石・金雲母・赤色粒	水煙三部
93	2	第15図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	口縁部			(4.5)	無色7.5YR/4	良好	白粒・赤石・金雲母・赤色粒	
93	3	第15図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	胴部			(3.2)	半熟暗色10R/6	良好	白粒・赤石	
93	4	第15図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	胴部			(5.0)	半熟暗色10R/6	良好	白粒・赤石	
93	5	第15図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	胴部			(4.1)	半熟暗色10R/6	良好	白粒・赤石	
93	6	第15図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	胴部			(5.0)	半熟色10R/6	良好	白粒・赤石	
93	7	第15図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	胴一胴部			(5.2)	半熟暗色10R/6	良好	白粒・赤石	
93	8	第15図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	胴部			(9.0)	二ぶ一橋色7.5YR5/3	良好	白粒・赤石	
93	9	第15図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	胴部			(6.4)	半熟色2.5YR/6	良好	白粒・赤石・赤褐石・赤色粒	
93	10	第15図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	胴部			(3.6)	橙色7.5YR/6	良好	白粒・赤石・赤褐石・赤色粒	
93	11	第15図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	胴部			(6.4)	橙色7.5YR5/4	良好	白粒・赤石・赤褐石・赤色粒	
93	12	第15図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	口縁部			(6.4)	半熟暗色10R/6	良好	白粒・赤石・赤色粒	
93	13	第15図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	口縁部			(5.1)	半熟色10R/6	良好	白粒・赤石	
93	14	第15図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	胴部			(5.7)	半熟色10R/6	良好	白粒・赤石・黒鉱石	
93	15	第15図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	胴部			(5.3)	半熟色10R/6	良好	白粒・赤石・赤褐石	
93	16	第15図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	胴部			(5.4)	半熟暗色10R/6	良好	白粒・赤石・赤褐石・赤色粒	
93	17	第15図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	胴部			(7.7)	半熟色10R/6	良好	白粒・赤石・赤色粒	
93	18	第15図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	胴部			(7.1)	半熟色10R/6	良好	白粒・赤石	
93	19	第15図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	胴部			(6.3)	半熟色10R/6	良好	白粒・赤石・赤色粒	
93	20	第15図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	胴部			(5.6)	半熟色10R/6	良好	白粒・赤石	
93	21	第15図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	胴部			(4.4)	半熟暗色10R/6	良好	白粒・赤石	
93	22	第15図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	胴部			(6.1)	半熟色10R/6	良好	白粒・金雲母	
93	23	第15図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	胴部			(5.3)	半熟色10R/6	良好	白粒・赤石	
93	24	第15図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	胴部			(6.2)	半熟色10R/6	良好	白粒・赤石	
93	25	第15図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	胴部			(5.2)	半熟暗色10R/6	良好	白粒・赤石	
93	26	第15図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	胴部			(5.6)	半熟色10R/6	良好	白粒・赤石・赤褐石	
93	27	第15図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	胴部一胴部			(6.2)	半熟色7.5YR/6	良好	白粒・赤石	
93	28	第15図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	胴部			(6.5)	無色7.5YR/4	良好	白粒・赤石	
93	29	第15図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	胴部			(6.3)	半熟色7.5YR/6	良好	白粒・赤石	
93	30	第15図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	胴部			(5.2)	半熟色2.5YR/6	良好	白粒・赤石	
93	31	第15図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	胴部			(5.2)	半熟暗色10R/6	良好	白粒・赤石・赤褐石	
93	32	第15図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	胴部			(5.2)	半熟暗色10R/6	良好	白粒・赤石・赤褐石・赤色粒	
93	33	第15図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	胴部			(5.6)	半熟暗色10R/6	良好	白粒・赤石・赤褐石・赤色粒	
93	34	第15図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	胴部			(6.3)	半熟色10R/6	良好	白粒・赤石	
93	35	第15図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	胴部			(6.3)	無色7.5YR/4	良好	白粒・赤石・赤褐石	
93	36	第15図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	胴部一胴部			(4.6)	半熟色10R/6	良好	白粒・赤石	
93	37	第15図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	胴部			(6.2)	半熟色10R/6	良好	白粒・赤石・赤褐石・赤色粒	
93	38	第15図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	胴部			(6.3)	半熟色10R/6	良好	白粒・赤石・赤褐石・赤色粒	
93	39	第15図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	胴部			(6.0)	半熟色2.5YR/6	良好	白粒・赤石	
93	40	第15図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	胴部			(7.4)	半熟暗色10R/6	良好	白粒・赤石	
93	41	第15図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	胴部			(6.0)	無色7.5YR/6	良好	白粒・赤石・赤褐石	
93	42	第15図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	口縁部			(5.6)	無色7.5YR/6	良好	白粒・赤石・赤色粒	
93	43	第15図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	口縁部			(3.0)	半熟色7.5YR/6	良好	白粒・赤石・金雲母・赤褐石	
93	44	第15図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	口縁部			(6.3)	無色7.5YR/4	良好	白粒・赤石	
93	45	第15図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	口縁部			(5.0)	半熟色7.5YR/6	良好	白粒・赤石・赤褐石・赤色粒	
93	46	第15図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	胴部			(6.2)	半熟色7.5YR/6	良好	白粒・赤石	
93	47	第15図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	胴部			(6.3)	半熟色7.5YR/6	良好	白粒・赤石	
93	48	第15図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	胴部			(5.5)	二ぶ一橋色7.5YR5/3	良好	白粒・赤石	
93	49	第15図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	胴部			(5.6)	半熟色7.5YR/6	良好	白粒・赤石・赤褐石・赤色粒	
93	50	第15図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	胴部			(5.6)	半熟色7.5YR/6	良好	白粒・赤石・赤色粒	
93	51	第15図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	胴部			(5.6)	二ぶ一橋色7.5YR6/3	良好	白粒・赤石・赤褐石・赤色粒	
93	52	第15図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	胴部			(6.4)	無色7.5YR/6	良好	白粒・赤石	
93	53	第15図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	口縁部			(6.6)	半熟色7.5YR/6	良好	白粒・赤石・赤褐石	
93	54	第15図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	口縁部			(4.5)	半熟色7.5YR/6	良好	白粒・赤石・金雲母	
93	55	第15図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	口縁部			(5.6)	二ぶ一橋色7.5YR6/3	良好	白粒・赤石・赤褐石・赤色粒	
93	56	第15図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	口縁部			(6.4)	無色7.5YR/6	良好	白粒・赤石	
93	57	第15図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	口縁部			(7.2)	二ぶ一橋色7.5YR6/3	良好	白粒・赤石	
93	58	第15図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	口縁部			(7.0)	半熟色7.5YR/6	良好	白粒・赤石	
93	59	第15図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	口縁部			(6.1)	半熟色7.5YR/6	良好	白粒・赤石・金雲母	
93	60	第15図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	胴部			(4.0)	半熟色7.5YR/6	良好	白粒・赤石・赤褐石	
93	61	第15図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	口縁部			(3.7)	半熟色7.5YR/6	良好	白粒・赤石	
93	62	第15図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	口縁部			(4.0)	半熟色7.5YR/6	良好	白粒・赤石	
93	63	第15図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	胴部			(3.0)	半熟色7.5YR/6	良好	白粒・赤石	
93	64	第15図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	口縁部			(4.0)	半熟色7.5YR/6	良好	白粒・赤石	
93	65	第15図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	胴部			(3.0)	半熟色7.5YR/6	良好	白粒・赤石	
93	66	第15図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	口縁部			(5.6)	半熟色7.5YR/6	良好	白粒・赤石	
93	67	第15図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	胴部			(3.0)	半熟色7.5YR/6	良好	白粒・赤石	
93	68	第15図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	口縁部			(5.6)	半熟色7.5YR/6	良好	白粒・赤石	
93	69	第15図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	胴部			(3.0)	無色7.5YR/6	良好	白粒・赤石	
93	70	第15図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	胴部			(4.3)	半熟色7.5YR/6	良好	白粒・赤石	
93	71	第15図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	胴部			(3.2)	半熟色7.5YR/6	良好	白粒・赤石	
93	72	第15図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	胴部			(3.7)	半熟色7.5YR/6	良好	白粒・赤石・赤褐石	
93	73	第15図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	胴部			(5.6)	無色7.5YR/6	良好	白粒・赤石・赤褐石	
93	74	第15図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	胴部			(3.3)	半熟暗色10YR/6	良好	白粒・赤石・赤褐石・赤色粒	
93	75	第15図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	胴部			(3.5)	二ぶ一橋色7.5YR6/3	良好	白粒・赤石・赤褐石・赤色粒	
93	76	第15図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	胴部			(5.6)	半熟色7.5YR/6	良好	白粒・赤石	
93	77	第15図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	胴部			(3.6)	二ぶ一橋色7.5YR6/3	良好	白粒・赤石	
93	78	第15図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	胴部			(5.6)	無色7.5YR/6	良好	白粒・赤石	
93	79	第15図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	胴部			(7.2)	二ぶ一橋色7.5YR6/3	良好	白粒・赤石	
93	80	第15図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	口縁部			(7.0)	半熟色7.5YR/6	良好	白粒・赤石	
93	81	第15図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	胴部			(6.1)	半熟色7.5YR/6	良好	白粒・赤石・金雲母	
93	82	第15図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	胴部			(4.0)	半熟色7.5YR/6	良好	白粒・赤石・赤褐石	
93	83	第15図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	口縁部			(3.7)	半熟色7.5YR/6	良好	白粒・赤石	
93	84	第15図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	口縁部			(4.0)	半熟色7.5YR/6	良好	白粒・赤石	
93	85	第15図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	胴部			(3.0)	半熟色7.5YR/6	良好	白粒・赤石	
93	86	第15図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	胴部			(5.6)	半熟色7.5YR/6	良好	白粒・赤石	
93	87	第15図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	胴部			(5.0)	半熟色7.5YR/6	良好	白粒・赤石	
93	88	第15図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	口縁部			(5.6)	半熟色7.5YR/6	良好	白粒・赤石	
93	89	第15図	図版4	縄文土器	浅鉢形土器	口縁部			(3.6)	無色7.5YR/6	良好	白粒・赤石	
93	90	第15図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	口縁部			(4.0)	無色7.5YR/6	良好	白粒・赤石	
93	91	第15図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	胴部			(4.0)	半熟色7.5YR/6	良好	白粒・赤石	
93	92	第15図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	胴部	(5.0)		(6.0)	半熟色7.5YR/6	良好	白粒・赤石・雲母	
93	93	第15図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	胴部			(5.0)	半熟色7.5YR/6	良好	白粒・赤石・雲母	
93	94	第15図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	胴部		11.0	(5.5)	半熟色7.5YR/6	良好	白粒・赤石	
93	95	第15図	図版4	縄文土器	磨製石器	口縁部			(4.0)	半熟色7.5YR/6	良好	白粒・赤石	
93	96	第15図	図版4	縄文土器	有孔鍔付土器	胴部			(3.0)	半熟色7.5YR/6	良好	白粒・赤石	
93	97	第15図	図版4	縄文土器	有孔鍔付土器	胴部			(6.2)	半熟色7.5YR/6	良好	白粒・赤石	
93	98	第15図	図版4	縄文土器	有孔鍔付土器	胴部			(3.0)	半熟色7.5YR/6	良好	白粒・赤石	
93	100	第16図	図版4	縄文土器	一部円筒				(5.7)	半熟色10R/6	良好	白粒・赤石	
93	101	第16図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	口縁部			(4.1)	半熟色10R/6	良好	白粒・赤石	
94	1	第17図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	口縁部			(7.0)	半熟暗色10R/6	良好	白粒・赤石・雲母	
94	2	第17図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	胴部			(4.0)	半熟暗色10R/6	良好	白粒・赤石	
94	3	第17図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	胴部			(5.1)	半熟暗色10R/6	良好	白粒・赤石	
94	4	第17図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	口縁部			(6.0)	半熟暗色10R/6	良好	白粒・赤石	
94	5	第17図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	口縁部			(4.0)	半熟暗色10R/6	良好	白粒・赤石	
94	6	第17図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	胴部			(3.2)	半熟暗色10R/6	良好	白粒・赤石・雲母	
94	7	第17図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	胴部			(5.5)	半熟暗色10R/6	良好	白粒・赤石	
94	8	第17図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	胴部			(5.2)	半熟暗色10R/6	良好	白粒・赤石	
94	9	第17図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	胴部			(3.5)	半熟暗色10R/6	良好	白粒・赤石・雲母	
94	10	第17図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	口縁部			(6.2)	二ぶ一橋色7.5YR5/3	良好	白粒・赤石・赤褐石・赤色粒	
94	11	第17図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	胴部			(4.6)	半熟暗色2.5YR/6	良好	白粒・赤石・赤色粒	
94	12	第17図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	口縁部			(6.0)	二ぶ一橋色7.5YR5/3	良好	白粒・赤石	
94	13	第17図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	胴部			(5.1)	半熟暗色10R/6	良好	白粒・赤石・赤褐石・赤色粒	
94	14	第17図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	胴部			(6.2)	半熟色10R/6	良好	白粒・赤石・赤色粒	
94	15	第17図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	胴部			(6.0)	半熟色10R/6	良好	白粒・赤石	
94	16	第17図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	胴部			(6.4)	半熟色10R/6	良好	白粒・赤石	
94	17	第17図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	胴部			(5.3)	半熟暗色2.5YR5/6	良好	白粒・赤石	
94	18	第17図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	胴部			(5.0)	半熟色2.5YR/6	良好	白粒・赤石・赤色粒	
94	19	第17図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	口縁部			(4.6)	半熟色10R/6	良好	白粒・赤石・赤色粒	
94	20	第17図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	口縁部			(4.6)	半熟色10R/6	良好	白粒・赤石・赤色粒	
94	21	第17図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	胴部			(3.1)	半熟色10R/6	良好	白粒・赤石	
94	22	第17図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	口縁部			(7.2)	半熟暗色10R/6	良好	白粒・赤石・雲母・赤色粒	
94	23	第17図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	口縁部			(10.4)	半熟色10R/6	良好	白粒・赤石	
94	24	第17図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	口縁部			(7.0)	二ぶ一橋暗色5YR6/4	良好	白粒・赤石・雲母・赤色粒	
94	25	第17図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	胴部			(5.1)	二ぶ一橋暗色5YR6/4	良好	白粒・赤石・赤色粒・赤色粒	
94	26	第17図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	胴部			(3.7)	半熟暗色10R/6	良好	白粒・赤石・赤色粒・赤色粒	
94	27	第17図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	胴部			(5.5)	半熟暗色10R/6	良好	白粒・赤石	

巻数値単位は cm、(数値)は復元・残存値

遺構名	遺物番号	図番号	写真番号	種別	器種	部位	口径・底	底径・幅	器高・厚	色調	焼成	胎土	備考
SH	28	第17図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(6.1)	明褐色7.5YR6/6	良好	長石	
SH	29	第17図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(5.6)	明褐色2.5YR6/6	良好	長石・黒雲石	
SH	30	第17図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(5.2)	明褐色2.5YR6/6	良好	長石	
SH	31	第17図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(3.2)	暗赤7.5YR3/6	良好	石英・長石	
SH	32	第17図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	口縁部	—	—	(7.4)	明褐色2.5YR6/6	良好	石英・長石	
SH	33	第17図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(5.6)	二ぶ暗赤7.5YR6/3	良好	石英・長石・雲母	
SH	34	第17図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(5.6)	明褐色2.5YR6/6	良好	長石	
SH	35	第17図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(5.8)	明褐色2.5YR6/6	良好	石英・長石	
SH	36	第17図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(5.4)	明褐色2.5YR6/8	良好	石英・長石・雲母・赤色粒	
SH	37	第17図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(6.5)	明褐色2.5YR6/6	良好	長石・雲母	
SH	38	第17図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(4.6)	明褐色2.5YR6/6	良好	長石	
SH	39	第17図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(5.1)	赤褐色2.5YR6/8	良好	長石	
SH	40	第17図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(6.2)	明褐色2.5YR6/6	良好	石英・長石・赤色粒	
SH	41	第17図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(5.6)	暗赤2.5YR3/6	良好	長石・赤色粒	
SH	42	第17図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(6.2)	赤褐色2.5YR4/8	良好	石英・長石	
SH	43	第17図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	口縁部	—	—	(5.0)	明褐色2.5YR6/6	良好	長石	
SH	44	第17図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	口縁部	—	—	(5.1)	明褐色2.5YR6/6	良好	石英・長石	
SH	45	第18図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	口縁部	—	—	(7.4)	明褐色2.5YR6/6	良好	石英・長石	
SH	46	第18図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	口縁部	—	—	(5.2)	明褐色2.5YR6/8	良好	石英・長石	
SH	47	第18図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	口縁部	—	—	(7.7)	明褐色2.5YR6/8	良好	長石	
SH	48	第18図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	口縁部	—	—	(5.4)	二ぶ暗赤2.5YR3/6	良好	長石・雲母	
SH	49	第18図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(5.6)	明褐色2.5YR6/6	良好	長石	
SH	50	第18図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(5.4)	二ぶ暗赤2.5YR3/6	良好	長石	
SH	51	第18図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(5.6)	二ぶ暗赤2.5YR3/6	良好	長石・雲母	
SH	52	第18図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(5.6)	二ぶ暗赤2.5YR3/6	良好	長石	
SH	53	第18図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(6.6)	暗赤2.5YR3/6	良好	石英・長石	
SH	54	第18図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(7.6)	赤褐色2.5YR4/8	良好	石英・長石	
SH	55	第18図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(4.7)	赤褐色2.5YR4/8	良好	石英・長石	
SH	56	第18図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(6.2)	明褐色2.5YR6/6	良好	石英・長石	
SH	57	第18図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(6.2)	明褐色2.5YR6/6	良好	石英・長石	
SH	58	第18図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	口縁部	—	—	(7.6)	明褐色2.5YR6/6	良好	長石	
SH	59	第18図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	口縁部	—	—	(6.2)	赤褐色2.5YR4/8	良好	長石・雲母	
SH	60	第18図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	口縁部	—	—	(5.4)	明褐色2.5YR6/6	良好	長石	
SH	61	第18図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	口縁部	—	—	(4.0)	明褐色2.5YR6/6	良好	長石	
SH	62	第18図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	口縁部	—	—	(4.4)	二ぶ暗赤2.5YR3/6	良好	石英・長石	
SH	63	第18図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	口縁部	—	—	(6.7)	赤褐色2.5YR4/8	良好	長石・雲母	
SH	64	第18図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	口縁部	—	—	(5.6)	明褐色2.5YR6/6	良好	石英・長石	
SH	65	第18図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	口縁部	—	—	(4.6)	赤褐色2.5YR4/8	良好	石英・長石・黒雲石	
SH	66	第18図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(5.2)	赤褐色2.5YR4/8	良好	石英・長石	
SH	67	第18図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	口縁部	—	—	(5.6)	赤褐色2.5YR4/8	良好	石英・長石・赤色粒・赤色粒	
SH	68	第18図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(5.6)	明褐色2.5YR6/6	良好	長石	
SH	69	第18図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(7.8)	明褐色2.5YR6/6	良好	石英・長石	
SH	70	第18図	補図8	縄文土器	ミニチュア土器	口縁小一部残存	7.0	5.6	4.3	二ぶ暗赤2.5YR3/6	良好	石英・長石・赤色粒・赤色粒	
SH	71	第18図	補図8	土製品	土製円盤		—	—	(1.1)	赤褐色2.5YR4/8	良好	石英・長石・黒雲石・赤色粒	
SH	72	第18図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	底部	—	(5.6)	(2.6)	二ぶ暗赤2.5YR3/6	良好	長石	
SH	73	第18図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	底部	—	7.0	(1.7)	赤褐色2.5YR4/8	良好	石英・長石・黒雲石・赤色粒	
SH	74	第18図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	底部	—	(10.0)	(5.2)	赤褐色2.5YR4/8	良好	石英・長石	
SH	75	第18図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	底部	—	—	(5.6)	赤褐色2.5YR4/8	良好	石英・長石	
SK7	1	第19図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	口縁部	—	—	(7.8)	赤褐色2.5YR4/8	良好	石英・長石	
SK7	2	第19図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(8.2)	赤褐色2.5YR4/8	良好	石英・長石	
SK8	3	第19図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	口縁部	—	—	(6.4)	暗赤2.5YR3/6	良好	石英・長石	
SK8	4	第19図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	口縁部	—	—	(5.2)	暗赤2.5YR3/6	良好	石英・長石	
SK8	5	第19図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(7.0)	暗赤2.5YR3/6	良好	石英・長石	
SK8	6	第19図	補図8	縄文土器	石棒破砕痕	胴部	—	—	(5.4)	明褐色2.5YR6/6	良好	石英・長石・雲母	
SK8	7	第19図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	口縁部	—	—	(4.6)	明褐色2.5YR6/6	良好	石英・長石	
SK8	8	第19図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	口縁部	—	—	(5.2)	明褐色2.5YR6/6	良好	石英・長石	
SK8	9	第19図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	口縁部	—	—	(5.2)	明褐色2.5YR6/6	良好	石英・長石	
SK8	10	第19図	補図8	縄文土器	鉢?	口縁部	—	—	(3.4)	明褐色2.5YR6/6	良好	石英・長石	四隅突起鉢A?、鉢C、四隅A
SK8	11	第19図	補図8	縄文土器	石棒破砕痕	先端部	(1.6)	(1.7)	(6.5)	明褐色2.5YR6/6	良好	石英・長石	
SK8	12	第19図	補図8	縄文土器	鉢	口縁部	(1.2)	(6.7)	(6.2)	明褐色2.5YR6/6	良好	石英・長石	
SK8	13	第19図	補図8	縄文土器	石棒破砕痕?-石製品?	胴部	—	—	(3.4)	明褐色2.5YR6/6	良好	石英・長石	表杯鉢?、主要鉢構成鉢
SK8	14	第19図	補図8	縄文土器	壺形土器	口縁部	3.8	3.2	8.4	明褐色2.5YR6/6	良好	石英・長石	
SK8	15	第19図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	口縁部	(1.2)	(6.4)	(6.2)	明褐色2.5YR6/6	良好	石英・長石	
SK8	16	第19図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	口縁部	3.8	3.2	8.4	明褐色2.5YR6/6	良好	石英・長石	
SK8	17	第19図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	口縁部	(1.2)	(6.4)	(6.2)	明褐色2.5YR6/6	良好	石英・長石	表杯鉢?、主要鉢構成鉢
SK8	18	第19図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	口縁部	(1.2)	(6.4)	(6.2)	明褐色2.5YR6/6	良好	石英・長石	
SK8	19	第19図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	胴部	(1.2)	(6.4)	(6.2)	明褐色2.5YR6/6	良好	石英・長石	
SK8	20	第19図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	胴部	(1.2)	(6.4)	(6.2)	明褐色2.5YR6/6	良好	石英・長石	
SK8	21	第19図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	胴部	(1.2)	(6.4)	(6.2)	明褐色2.5YR6/6	良好	石英・長石	
SK8	22	第19図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	胴部	(1.2)	(6.4)	(6.2)	明褐色2.5YR6/6	良好	石英・長石	
SK8	23	第19図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	胴部	(1.2)	(6.4)	(6.2)	明褐色2.5YR6/6	良好	石英・長石	石棒破砕痕?、表杯鉢?
SK8	24	第19図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	胴部	(1.2)	(6.4)	(6.2)	明褐色2.5YR6/6	良好	石英・長石	
SK8	25	第19図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	胴部	(1.2)	(6.4)	(6.2)	明褐色2.5YR6/6	良好	石英・長石	
SK8	26	第19図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	胴部	(1.2)	(6.4)	(6.2)	明褐色2.5YR6/6	良好	石英・長石	
SK8	27	第19図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	胴部	(1.2)	(6.4)	(6.2)	明褐色2.5YR6/6	良好	石英・長石	
SK8	28	第19図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	胴部	(1.2)	(6.4)	(6.2)	明褐色2.5YR6/6	良好	石英・長石	
SK8	29	第19図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	胴部	(1.2)	(6.4)	(6.2)	明褐色2.5YR6/6	良好	石英・長石	
SK8	30	第19図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	胴部	(1.2)	(6.4)	(6.2)	明褐色2.5YR6/6	良好	石英・長石	
SK8	31	第19図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	胴部	(1.2)	(6.4)	(6.2)	明褐色2.5YR6/6	良好	石英・長石	
SK8	32	第19図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	胴部	(1.2)	(6.4)	(6.2)	明褐色2.5YR6/6	良好	石英・長石	
SK8	33	第19図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	胴部	(1.2)	(6.4)	(6.2)	明褐色2.5YR6/6	良好	石英・長石	
SK8	34	第19図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	胴部	(1.2)	(6.4)	(6.2)	明褐色2.5YR6/6	良好	石英・長石	
SK8	35	第19図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	胴部	(1.2)	(6.4)	(6.2)	明褐色2.5YR6/6	良好	石英・長石	
SK8	36	第19図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	胴部	(1.2)	(6.4)	(6.2)	明褐色2.5YR6/6	良好	石英・長石	
SK8	37	第19図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	胴部	(1.2)	(6.4)	(6.2)	明褐色2.5YR6/6	良好	石英・長石	
遺構外	38	第19図	補図8	縄文土器	鉢	口縁部	(1.2)	(6.4)	(6.2)	明褐色2.5YR6/6	良好	石英・長石	表杯鉢?、主要鉢構成鉢?、鉢D?、鉢E?
遺構外	39	第19図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	口縁部	(1.2)	(6.4)	(6.2)	明褐色2.5YR6/6	良好	石英・長石	
遺構外	40	第19図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	口縁部	(1.2)	(6.4)	(6.2)	明褐色2.5YR6/6	良好	石英・長石	鉢?、鉢D?
遺構外	41	第19図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	口縁部	(1.2)	(6.4)	(6.2)	明褐色2.5YR6/6	良好	石英・長石	鉢?、鉢D?
遺構外	42	第19図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	口縁部	(1.2)	(6.4)	(6.2)	明褐色2.5YR6/6	良好	石英・長石	表杯鉢?、主要鉢構成鉢?、鉢D?、鉢E?
遺構外	43	第19図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	口縁部	(1.2)	(6.4)	(6.2)	明褐色2.5YR6/6	良好	石英・長石	鉢?、鉢D?
遺構外	44	第19図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	口縁部	(1.2)	(6.4)	(6.2)	明褐色2.5YR6/6	良好	石英・長石	鉢?、鉢D?
遺構外	45	第19図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	口縁部	(1.2)	(6.4)	(6.2)	明褐色2.5YR6/6	良好	石英・長石	鉢?、鉢D?
遺構外	46	第19図	補図8	縄文土器	石棒-石棒破片用の?-製品?	胴部	(1.2)	(6.4)	(6.2)	明褐色2.5YR6/6	良好	石英・長石	表杯鉢?、主要鉢構成鉢?、鉢E?、鉢G
SI	1	第20図	補図8	縄文土器	深鉢		3.6	3.2	5.8	明褐色2.5YR6/6	良好	石英・長石	
SI	2	第20図	補図8	縄文土器	深鉢		3.6	3.6	5.2	明褐色2.5YR6/6	良好	石英・長石	
SI	3	第20図	補図8	縄文土器	深鉢		3.6	3.6	5.6	明褐色2.5YR6/6	良好	石英・長石	鉢E?
遺構外	4	第20図	補図8	縄文土器	鉢?		3.6	3.2	6.6	ピンク	良好	石英・長石	表杯鉢?、主要鉢構成鉢?、鉢E?、鉢G
SI	5	第20図	補図8	縄文土器	鉢?		(7.2)	(6.0)	(1.3)	明褐色2.5YR6/6	良好	石英・長石	
SI	6	第20図	補図8	縄文土器	鉢?		(5.2)	(5.2)	(1.3)	明褐色2.5YR6/6	良好	石英・長石	
SI	7	第20図	補図8	縄文土器	深鉢		(5.2)	(5.2)	(1.3)	明褐色2.5YR6/6	良好	石英・長石	
SI	8	第20図	補図8	縄文土器	深鉢		(5.2)	(5.2)	(1.3)	明褐色2.5YR6/6	良好	石英・長石	
SI	9	第20図	補図8	縄文土器	深鉢		(5.2)	(5.2)	(1.3)	明褐色2.5YR6/6	良好	石英・長石	
SI	10	第20図	補図8	縄文土器	鉢?		3.6	3.2	6.4	明褐色2.5YR6/6	良好	石英・長石	四隅突起鉢A?、鉢E、四隅A
SI	11	第20図	補図8	縄文土器	石棒破砕痕-石棒製品?	先端部	(1.6)	(1.7)	(6.5)	明褐色2.5YR6/6	良好	石英・長石	
SI	12	第20図	補図8	縄文土器	鉢?		(7.2)	(6.0)	(1.3)	明褐色2.5YR6/6	良好	石英・長石	
SI	13	第20図	補図8	縄文土器	石棒破砕痕?-石製品?	胴部	—	—	(3.4)	明褐色2.5YR6/6	良好	石英・長石	表杯鉢?、主要鉢構成鉢
SI	14	第20図	補図8	縄文土器	壺形土器	口縁部	3.8	3.2	8.4	明褐色2.5YR6/6	良好	石英・長石	
SI	15	第20図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	口縁部	(1.2)	(6.4)	(6.2)	明褐色2.5YR6/6	良好	石英・長石	
SI	16	第20図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	口縁部	3.8	3.2	8.4	明褐色2.5YR6/6	良好	石英・長石	
SI	17	第20図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	口縁部	(1.2)	(6.4)	(6.2)	明褐色2.5YR6/6	良好	石英・長石	
SI	18	第20図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	口縁部	(1.2)	(6.4)	(6.2)	明褐色2.5YR6/6	良好	石英・長石	
SI	19	第20図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	口縁部	(1.2)	(6.4)	(6.2)	明褐色2.5YR6/6	良好	石英・長石	
SI	20	第20図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	口縁部	(1.2)	(6.4)	(6.2)	明褐色2.5YR6/6	良好	石英・長石	
SI	21	第20図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	口縁部	(1.2)	(6.4)	(6.2)	明褐色2.5YR6/6	良好	石英・長石	
SI	22	第20図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	胴部	(1.2)	(6.4)	(6.2)	明褐色2.5YR6/6	良好	石英・長石	
SI	23	第20図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	胴部	(1.2)	(6.4)	(6.2)	明褐色2.5YR6/6	良好	石英・長石	
SI	24	第20図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	胴部	(1.2)	(6.4)	(6.2)	明褐色2.5YR6/6	良好	石英・長石	
SI	25	第20図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	胴部	(1.2)	(6.4)	(6.2)	明褐色2.5YR6/6	良好	石英・長石	
SI	26	第20図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	胴部	(1.2)	(6.4)	(6.2)	明褐色2.5YR6/6	良好	石英・長石	
SI	27	第20図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	胴部	(1.2)	(6.4)	(6.2)	明褐色2.5YR6/6	良好	石英・長石	
SI	28	第20図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	胴部	(1.2)	(6.4)	(6.2)	明褐色2.5YR6/6	良好	石英・長石	
SI	29	第20図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	胴部	(1.2)	(6.4)	(6.2)	明褐色2.5YR6/6	良好	石英・長石	
SI	30	第20図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	胴部	(1.2)	(6.4)	(6.2)	明褐色2.5YR6/6	良好	石英・長石	
SI	31	第20図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	胴部	(1.2)	(6.4)	(6.2)	明褐色2.5YR6/6	良好	石英・長石	
SI	32	第20図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	胴部	(1.2)	(6.4)	(6.2)	明褐色2.5YR6/6	良好	石英・長石	
SI	33	第20図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	胴部	(1.2)	(6.4)	(6.2)	明褐色2.5YR6/6	良好	石英・長石	
SI	34	第20図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	胴部	(1.2)	(6.4)	(6.2)	明褐色2.5YR6/6	良好	石英・長石	
SI	35	第20図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	胴部	(1.2)	(6.4)	(6.2)	明褐色2.5YR6/6	良好	石英・長石	
SI	36	第20図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	胴部	(1.2)	(6.4)	(6.2)	明褐色2.5YR6/6	良好	石英・長石	
SI	37	第20図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	胴部	(1.2)	(6.4)	(6.2)	明褐色2.5YR6/6	良好	石英・長石	
SI	38	第20図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	胴部	(1.2)	(6.4)	(6.2)	明褐色2.5YR6/6	良好	石英・長石	
SI	39	第20図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	胴部	(1.2)	(6.4)	(6.2)	明褐色2.5YR6/6	良好	石英・長石	
SI	40	第20図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	胴部	(1.2)	(6.4)	(6.2)	明褐色2.5YR6/6	良好	石英・長石	
SI	41	第20図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	胴部	(1.2)	(6.4)	(6.2)	明褐色2.5YR6/6	良好	石英・長石	
SI	42	第20図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	胴部	(1.2)	(6.4)	(6.2)	明褐色2.5YR6/6	良好	石英・長石	
SI	43	第20図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	胴部	(1.2)	(6.4)	(6.2)	明褐色2.5YR6/6	良好	石英・長石	
SI	44	第20図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	胴部	(1.2)	(6.4)	(6.2)	明褐色2.5YR6/6	良好	石英・長石	
SI	45	第20図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	胴部	(1.2)	(6.4)	(6.2)	明褐色2.5YR6/6	良好	石英・長石	
SI	46	第20図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	胴部	(1.2)	(6.4)	(6.2)	明褐色2.5YR6/6	良好	石英・長石	
SI	47	第20図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	胴部	(1.2)	(6.4)	(6.2)	明褐色2.5YR6/6	良好	石英・長石	
SI	48	第20図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	胴部	(1.2)	(6.4)	(6.2)	明褐色2.5YR6/6	良好	石英・長石	
SI	49	第20図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	胴部	(1.2)	(6.4)	(6.2)	明褐色2.5YR6/6	良好	石英・長石	
SI	50	第20図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	胴部	(1.2)	(6.4)	(6.2)	明褐色2.5YR6/6	良好	石英・長石	
SI	51	第20図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	胴部	(1.2)	(6.4)	(6.2)	明褐色2.5YR6/6	良好	石英・長石	
SI	52	第20図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	胴部	(1.2)	(6.4)	(6.2)	明褐色2.5YR6/6	良好	石英・長石	
SI	53	第20図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	胴部	(1.2)	(6.4)	(6.2)	明褐色2.5YR6/6	良好	石英・長石	
SI	54	第20図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	胴部	(1.2)	(6.4)	(6.2)	明褐色2.5YR6/6	良好	石英・長石	
SI	55	第20図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	胴部	(1.2)	(6.4)	(6.2)	明褐色2.5YR6/6	良好	石英・長石	
SI	56	第20図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	胴部	(1.2)	(6.4)	(6.2)	明褐色2.5YR6/6	良好	石英・長石	
SI	57	第20図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	胴部	(1.2)	(6.4)	(6.2)	明褐色2.5YR6/6	良好	石英・長石	
SI	58	第20図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	胴部	(1.2)	(6.4)	(6.2)	明褐色2.5YR6/6	良好	石英・長石	
SI	59	第20図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	胴部	(1.2)	(6.4)	(6.2)	明褐色2.5YR6/6	良好	石英・長石	
SI	60	第20図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	胴部	(1.2)	(6.4)	(6.2)	明褐色2.5YR6/6	良好	石英・長石	
SI	61	第20図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	胴部	(1.2)	(6.4)	(6.2)	明褐色2.5YR6/6	良好	石英・長石	
SI	62	第20図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	胴部	(1.2)	(6.4)	(6.2)	明褐色2.5YR6/6	良好	石英・長石	
SI	63	第20図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	胴部	(1.2)	(6.4)	(6.2)	明褐色2.5YR6/6	良好	石英・長石	
SI	64	第20図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	胴部	(1.2)	(6.4)	(6.2)	明褐色2.5YR6/6	良好	石英・長石	
SI	65	第20図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	胴部	(1.2)	(6.4)	(6.2)	明褐色2.5YR6/6	良好	石英・長石	
SI	66	第20図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	胴部	(1.2)	(6.4)	(6.2)	明褐色2.5YR6/6	良好	石英・長石	
SI	67	第20図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	胴部	(1.2)	(6.4)	(6.2)	明褐色2.5YR6/6	良好	石英・長石	
SI	68	第20図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	胴部	(1.2)	(6.4)	(6.2)	明褐色2.5YR6/6	良好	石英・長石	
SI	69	第20図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	胴部	(1.2)	(6.4)	(6.2)	明褐色2.5YR6/6	良好	石英・長石	
SI	70	第20図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	胴部	(1.2)	(6.4)	(6.2)	明褐色2.5YR6/6	良好	石英・長石	
SI	71	第20図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	胴部	(1.2)	(6.4)	(6.2)	明褐色2.5YR6/6	良好	石英・長石	
SI	72	第20図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	胴部	(1.2)	(6.4)	(6.2)	明褐色2.5YR6/6	良好	石英・長石	
SI	73	第20図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	胴部	(1.2)	(6.4)	(6.2)	明褐色2.5YR6/6	良好	石英・長石	
SI	74	第20図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	胴部	(1.2)	(6.4)	(6.2)	明褐色2.5YR6/6	良好	石英・長石	
SI	75	第20図	補図8	縄文土器	深鉢形土器	胴部	(1.2)	(6.4)	(6.2)	明褐色2.5YR6/6	良好	石英・長石	

第５章　まとめ

第１節　遺構と時期

本遺跡にて今回確認できた竪穴遺構は４基である。尾根の傾斜地に形成されていることから、畑の造成や耕作により削平箇所が多く遺構の輪郭も不明瞭であったり、完全には残っていないものもあった。遺構に伴う土器についても完形の個体はほとんど無く、また破片も複数の時期の混入が多かった。従って遺構の時期決定にあたっては、遺構内の下層から床面の土器を対象として時期的なまとまりをも考慮しながら判断した。

その結果、第４章にて述べたように曽利Ⅱ式ないしⅢ式期（３号竪穴）、曽利Ⅲ～Ⅳ式（４号竪穴）、曽利Ⅳ式期（１号竪穴）、称名寺Ⅰ式期（２号竪穴）とした。これらの位置関係については斜面の上方に３号（曽利Ⅱ～Ⅲ式期）があり、重複しながら４ｍ程下がった場所に４号（曽利Ⅲ～Ⅳ式期）、その南５ｍに２号（称名寺Ⅰ式期）、さらにその西７ｍに１号（曽利Ⅳ式期）という配列になる。300㎡内に４基の竪穴があることから、密度的にはさほど低いとは思われず、また曽利Ⅰ式やⅤ式さらには堀之内１式などの土器片が出土していることを加えると、それぞれの時期の遺構も周辺に存在していた可能性がある。勝坂段階の土器も少量出土しているが、やはり本遺跡の中心は曽利Ⅱ式期以降後期前葉までとみることができる。特に称名寺Ⅰ式段階の竪穴が調査されたことは意義深く、曽利終末期から継続することが考えられる。県東部地域の事例ではあるが、大月遺跡（山梨県教育委員会 1997 年）では張り出しをもつ該期の敷石住居が調査されており、やはり曽利Ⅴ式期から称名寺式期へのつながりが確認されている。土器に関しては曽利Ⅴ式・加曽利 E4 式・称名寺Ⅰ式の共伴関係も問われる事例であり、本遺跡でも同様な課題が提供されたといえる。甲府盆地方面では称名寺Ⅰ式、Ⅱ式期あわせて 15 軒が調査された茅ヶ岳山麓の北杜市須玉町上ノ原遺跡（上ノ原遺跡発掘調査団 1999）の例が著名である。傾斜面の等高線に沿って列状に並ぶ傾向とともに入り口部を持った敷石住居となることが指摘されている。さらに曽利Ⅳ式期３軒、Ⅴ式期 15 軒、堀之内１式期 56 軒、２式期 36 軒が発見されていることから、中期終末から称名寺式期にかけて継続するとともに、さらに堀之内式期に最盛期を迎えるという集落の展開が把握できる。ここでは称名寺式期が中期と後期とをつなぐ画期ともなっているのではないか。八ヶ岳山麓の高根町川又坂上遺跡（山梨県教育委員会他 1993）では小範囲の調査ながら、称名寺ⅠおよびⅡ式の住居３軒が発掘されており、包含層からは曽利Ⅴ式や加曽利 E4 式土器片も出土している。ここでも張り出し部と敷石とが確認されており、立地も斜面寄りにあたっている。笛吹市境川町水口遺跡（山梨県教育委員会他 1994）では称名寺Ⅰ式期と堀之内１式期が２軒づつ発見されており、加曽利 E4 式土器も含まれている。称名寺式期の住居はプランが明瞭ではなく、敷石や張り出しは確認されていない。山梨市域では牧丘町古宿道の上遺跡（牧丘町教育委員会 1981）から堀之内２式期の敷石住居が発見されているが、曽利Ⅴ式期とされる１軒は床面直上の土器からすると称名寺Ⅰ式期の可能性はある。

以上のような称名寺式期の住居の性格から本遺跡においても敷石や張り出しの存在に注意しながら調査を進めたが、削平や攪乱などによりこれらの確認はできなかった。しかし立地や中期終末土器との関係性においては上記のような県内遺跡の状況と共通している。特に本遺跡の立地については、いわゆる谷底平野の始まる上部の南東斜面であるという地理的・地形的条件にあるが、これが中期後半から後期初頭にかけての集落形成にどのように関わったのか、他の地域を含めて該期の性格を考える必要があろう。また、曽利Ⅴ式期の終末および加曽利 E4 式土器との関わり、さらには堀之内１式期へのつながりが問題となる。このことを含め、集落立地や継続性・住居構造といった点からもこの時期を画期としてとらえていく必要性があろう。

さらに１号竪穴からは土偶が出土しており、その特徴は第２節で検討されているとおりである。本遺跡が土偶を伴う集落であったことも重要といえる。

なお出土土器に残る圧痕２点について、中山誠二氏に種子同定を依頼したが鍵となる部位が認められず、同定判断は出来なかった（図版２最下段）。

第２節　土偶

ここでは本遺跡から出土した土偶の特徴について本調査区の所在する山梨市の遺跡から出土した土偶との比較も加え整理し述べたい。

宮ノ前 (七日子) 遺跡　七日子神社の境内から七日子遺跡が確認され、その周辺に宮ノ前遺跡がある。七日子遺跡からは全身土偶が１体出土している。曽利式期のもので頭髪表現や胴部に文様があるほか、腕を横に伸ばしている。宮ノ前遺跡からは頭部・腕部・腰下が欠損した土偶１体が出土している。肩から腕が下に伸びる構造で中期前葉と思われる。

日下部遺跡　頭部のみの土偶が１体出土している。首に二本線、付け根には渦巻状の文様があり曽利式期のものと思われる。

立石遺跡　２体の土偶が出土している。１体は頭部・左腕を欠損しており、胴部から脚部にかけて文様が確認される。右腕先端に数本の沈線が確認される。もう１体は頭部のみ欠損しており、脚部が密着し足先部分が分かれる。また、２体とも腕を横に伸ばしている。

高畑遺跡　29 体の土偶が出土している。新道式期から藤内・井戸尻・曽利まで含むが新道式期が 20 体以上と多く、大小・形態に多様性がみられる。また立体的であり渦巻文 (蛇体) の頭髪表現や正中線、対称弧刻文がある。

中久堰遺跡　堀之内２式期の敷石住居から２体出土。完形ではないが腕を下げる胴長タイプであることがわかる。背面には渦巻文があり時期的な特徴を示す。

本調査区で出土した土偶の形態は顔をやや斜め前に下げて腕を斜め上に伸ばしている。現存高は約 95㎜、両腕があった場合の横幅は推定約 140㎜である。顔は頭部正面を占め、顔面表現には円形刺突や沈線が用いられている。頭部は胴部から伸びる半円形で、後頭部の隆線による頭髪表現は高畑遺跡のような立体的ではなく渦巻状の低い隆線で表現されており、隆線上部には横一本の沈線が入る。胸部は乳房の表現がなされ、その下に沈線による文様が施されている。腰部から下は欠損している。背部には肩部から腰部に掛けて沈線によってタスキ状の文様が施されている。以上、顔面の円形刺突や沈線の状況は後期初頭の土器や土偶の文様に類似する。しかし、左腕は先端を除いて欠損するものの右腕が上方を向くことは曽利土偶と共通しており、腕を下げる後期の中久堰例とは異なっている。顔面も後期土偶のようには前方に突き出してはいない。また、周辺には称名寺式土器片がみられるものの、この土偶が出土した SK １内では曽利Ⅳ式からⅤ式の土器片が多い。これらのことから、後期的な文様ではあるが曽利式期終末の土偶としておきたい。しかし曽利土偶特有の背面文等は持たない。また、今回紹介した山梨市内の土偶との比較からは、腕の沈線については立石例に類似する部分もあるが、七日子遺跡や日下部遺跡などの曽利期土偶とは顔面や施文に違いがみられ時期差が考えられる。今後類例の検討を行なう必要がある。

引用文献

上ノ原遺跡発掘調査団 1999『上ノ原遺跡』
『土偶とその情報』研究会 1996『中部高地をとりまく中期の土偶』
牧丘町教育委員会 1981『古宿道の上遺跡』
(財) 山梨文化財研究所 2005『高畑遺跡』山梨市文化財調査報告書第８集
(財) 山梨文化財研究所 2008『中久堰遺跡』山梨市文化財調査報告書第 11 集
山梨県教育委員会他 1993『川又坂上遺跡』山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第 75 集
山梨県教育委員会他 1994『水口遺跡』山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第 91 集
山梨県教育委員会 1997『大月遺跡』山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第 139 集
山梨市教育委員会 1995『宮ノ前遺跡』 山梨市文化財調査報告書第３集

遺跡遠景　完掘状況　西から

遺跡近景　完掘状況　真上から (上が北)

1 号竪穴　完掘状況　南から

1 号竪穴　遺物出土状況　南から

2 号竪穴　完掘状況　北から

2 号竪穴　遺物出土状況　西から

3 号竪穴　完掘状況　南から

3 号竪穴　遺物出土状況　西から

図版 2

4 号竪穴　完掘状況　南から

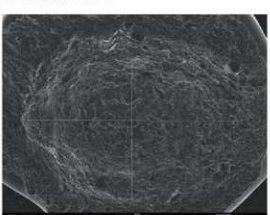
4 号竪穴　遺物出土状況　南から

1 号土坑　完掘状況　東から

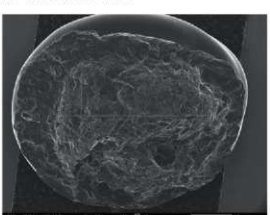
1 号土坑　遺物出土状況　西から

1 号土坑　完掘状況　東から

1 号土坑　遺物出土状況　東から

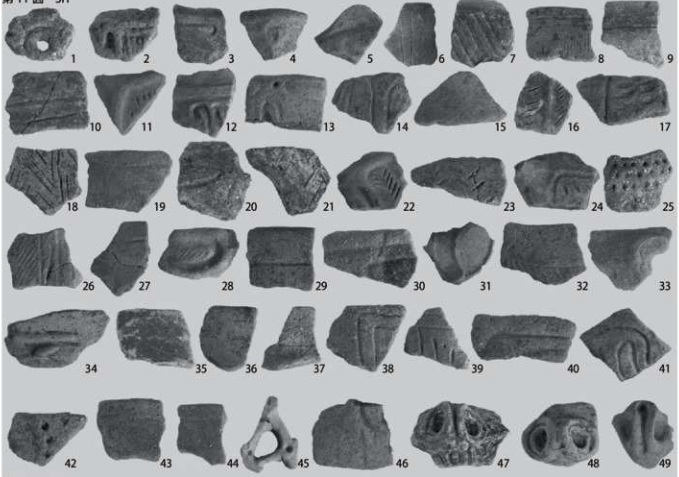


1 号竪穴　SI1-57（第 12 図）土器に残る圧痕

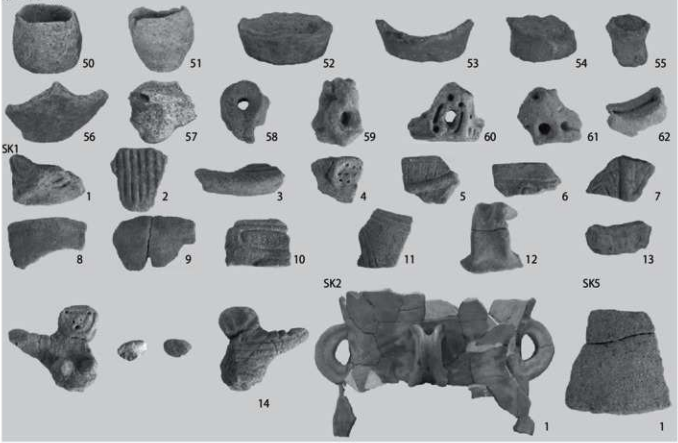


3 号竪穴　SI3-93（第 16 図）土器に残る圧痕

第 11 図　SI1

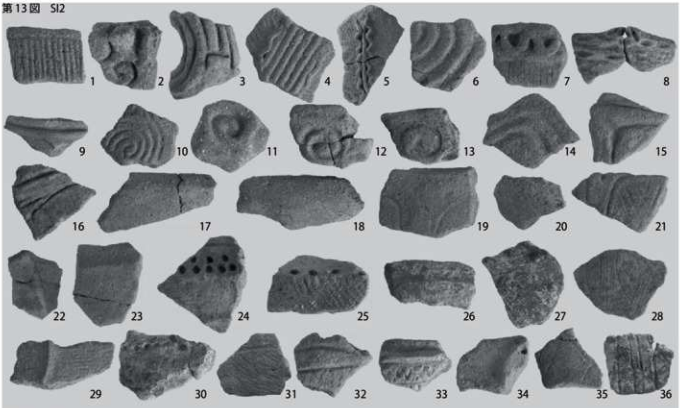


第 12 図　SI1

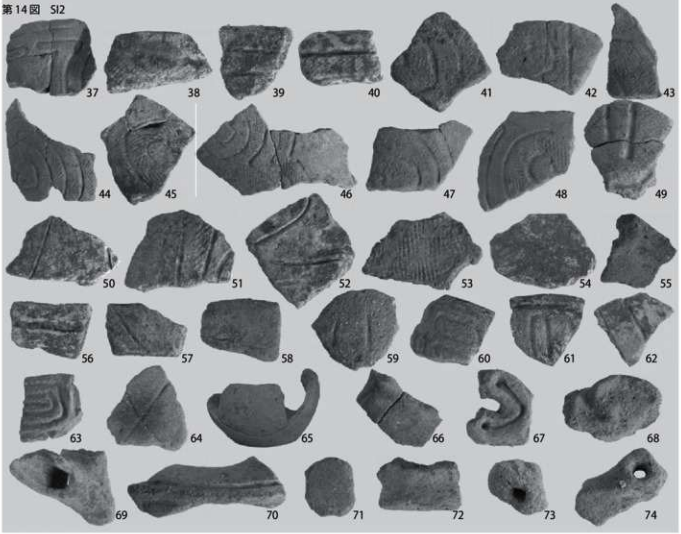


図版 4

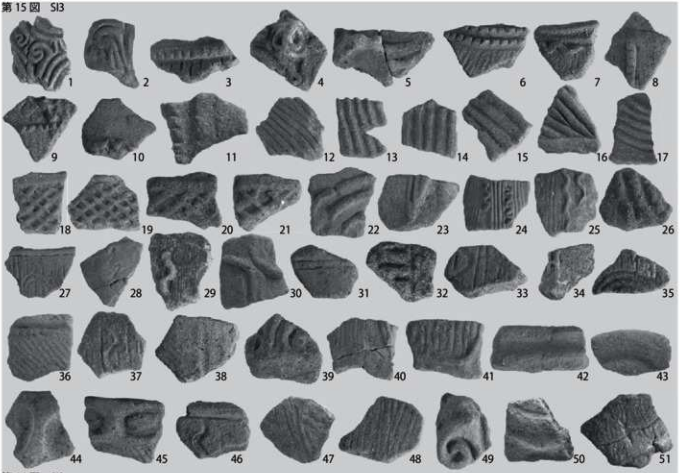
第 13 図　SI2



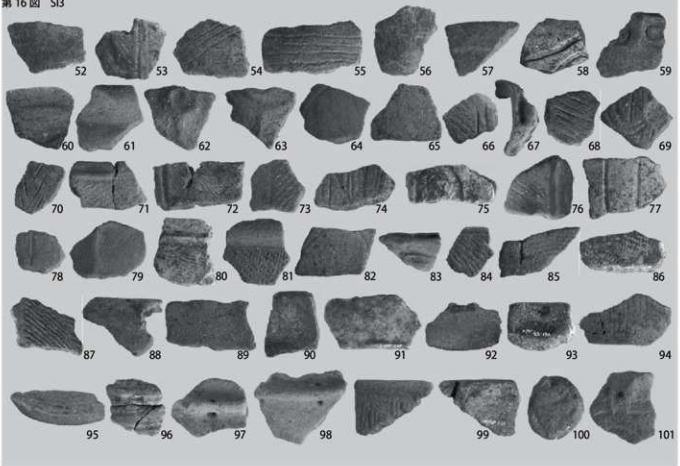
第 14 図　SI2



第 15 図　SI3

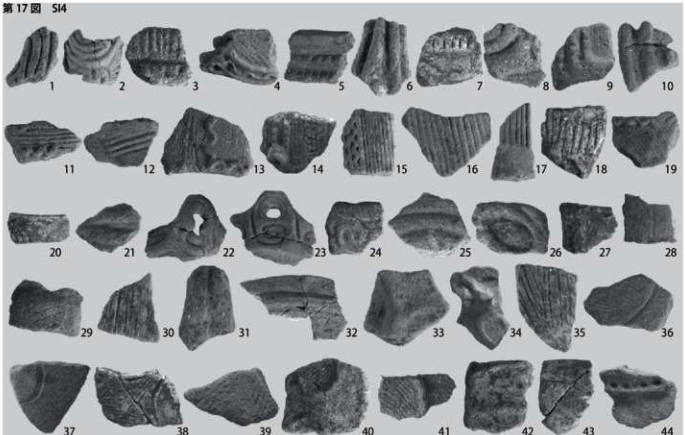


第 16 図　SI3

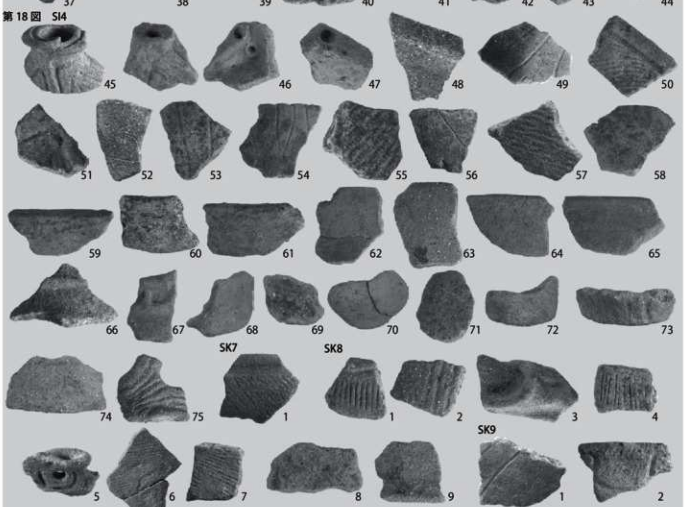


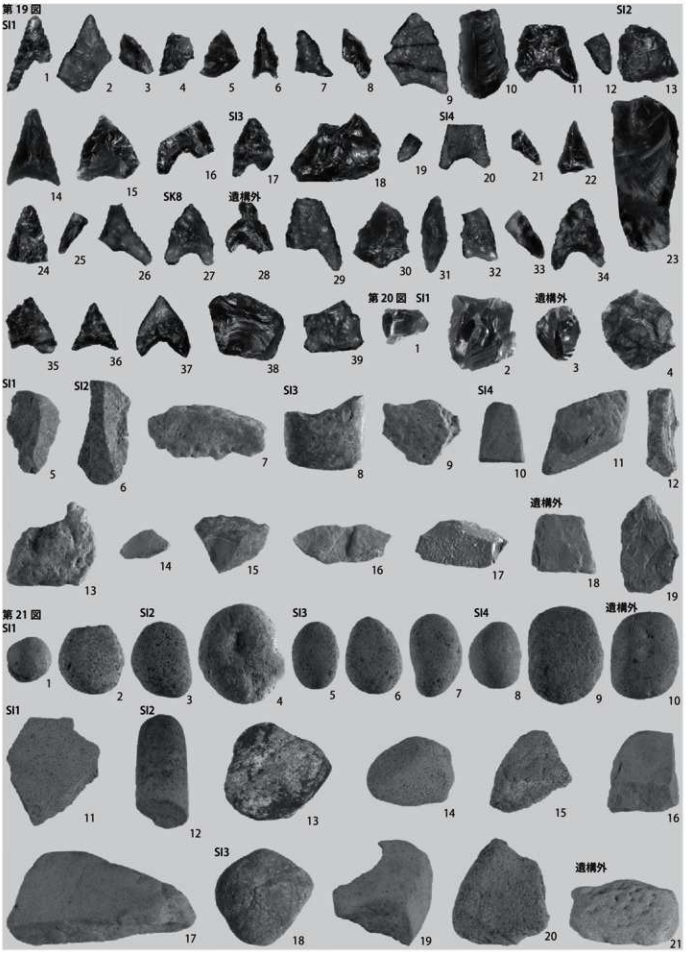
図版6

第17図　SI4



第18図　SI4




第 19 図
SI1
SI2
SI3
SI4
SK8
遺構外
第 20 図 SI1
遺構外
SI1
SI2
SI3
SI4
遺構外
第 21 図
SI1
SI2
SI3
SI4
遺構外
SI1
SI2
SI3
遺構外

報告書抄録

ふりがな	こあげいせき
書名	小揚遺跡
副書名	主要地方道甲府山梨線バイパス工事に伴う発掘調査報告書
編著者名	駒田真人（山梨市教育委員会）/ 髙野高潔・藤巻浩太郎（昭和測量株式会社）
編集機関	山梨市教育委員会 / 昭和測量株式会社
所在地	〒405-8501　山梨県山梨市小原西 843　℡0553-22-1111 〒400-0032　山梨県甲府市中央 3-11-27　℡055-235-4448
発行年月日	西暦 2021（令和 3）年 3 月 10 日

ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号				（㎡）	
こあげいせき 小揚遺跡	やまなしけん 山梨県 やまなししほりのうち 山梨市堀内 ７８３外	19205	05006	35°42′52″	138°39′55″	20200511 ～ 20200727	300	道路建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
小揚遺跡	散布地	縄文、平安	竪穴、土坑	縄文土器、石器、 土師器、須恵器、灰釉陶器	

山梨市文化財調査報告書　第 40 集

小　揚　遺　跡

－主要地方道甲府山梨線バイパス工事に伴う発掘調査報告書－

発　行　日　令和３年３月 10 日

編　　集　山梨市教育委員会
〒405-8501　山梨県山梨市小原西 843　℡0553-22-1111
昭和測量株式会社
〒400-0032　山梨県甲府市中央 3-11-27　℡055-235-4448

発　　行　山梨県峡東建設事務所　山梨市教育委員会　昭和測量株式会社

印刷・製本　昭和堂
〒404-0013　山梨県山梨市牧丘町窪平 62　℡0553-35-3833